



今月のご法話

争いは不幸を招きます
堪忍を実行しましょう

法音

11 月号 No.577
平成29年

日蓮宗
法音寺





一人が一人を

是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。
法華経には、一人を導く功德は広大である
とあります。

その一人が、他の人を導く功德が又大きい
のです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

月刊・法音

平成二十九年十二月号「577」

■目次■

【信仰の指針】 忍善にんぜん

【朝のこない夜はない】

争いは不幸を招きます

堪忍を実行しましょう

山首 鈴木正修

■講話日のご案内

■有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

■御開山会のお知らせ

■特別企画・聖の教え（二十三）

■とこのはの記 悟れば仏、迷えば凡夫

■読者の声 堀場温子（名古屋地区）

■のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

■ホームページのお知らせ

■福祉のひろば ニコニコ子育て保育の現場から⑥

■福祉に生きたる 光徳保育園・天王保育園の実践

■日本福祉大学付属高等学校 和太鼓部「楽鼓」全国大会で最優秀賞受賞

■賛助員ご芳名

■幸せの種まき／編集後記

■連載まんが・ひまわり・59 ノロマ

■書籍のご紹介

■法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・コスモス

掲載写真

表紙・信仰の指針・3

13頁・梅田雅臣氏撮影

2頁・加納将人氏撮影

信仰の指針

忍にん善ぜん

人生の問いに正しく

答えていますか

日教五





朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

あらそ
争いは不幸を招きます

かんにん
堪忍を実行しましょう

わたくしたちほうおんじ
私達法音寺の信仰をする者は昔から、
堪忍の話^{かんにん はなし}を耳^{みみ}に
タコができるくらい聞いてきました^きが、
堪忍は日本人^{かんにん にほんじん}に
とっては昔^{むかし}から重んじ^{おも}じられてきた修養徳目^{しゅうようとくもく}です。

えどじだい
江戸時代、テレビの『暴れん坊将軍』^{あばばうしやうぐん}として有名な徳^{とく}
川吉宗公^{がわよしむねこう}の頃^{ころ}に石田梅岩^{いしだばいがん}によって創始^{そうし}された『石門心学』^{せきもんしんがく}
という学問^{がくもん}が庶民^{しよみん}の間に広^{ひろ}まりました。仏教^{ぶつぎょう}・神道^{しんどう}、そ
して儒教^{じゆぎょう}の教え^{おし}を融合^{ゆうごう}させ、わかりやすく道話^{どうわ}にした教^{おし}
えです。

けいえい かみ
経営の神さま^{けいえい かみ}と言^いわれた、松^{まつ}下^{した}幸^{こう}之^の助^{すけ}さんはこの『石^{せき}



門心学』を大変尊び、これに倣って戦後「繁栄によって
平和と幸福を」という理念のもと「PHP研究所」を創
設されました。道話はほとんどが日常の修養の話です。
そして、堪忍の話も多いのです。その中から今回は二つ
紹介します。

ある村に心学の偉い先生がいました。その先生は村の
人達を集めて「堪忍の二字を守りなさい」と熱心に教え
ました。すると、一人の老人が「先生は、かんにんの二
字を守れ」とおっしゃるけれども、かんにんは四字
ではないですか」と言いました。先生は「堪忍は二字だ
と一生懸命説明するのですが、老人にはさっぱり通じま
せん。そのうちに先生が「堪忍は二字だ！四字なわけが
ないだろう！馬鹿者！」と言って怒りだしてしまいました
た。すると老人はニコニコしながら「わたしは、かんに



んぐの四字を守っていますから腹が立ちません。やっぱり、かんにんぐは四字ですな」と言ったということです。これは先生が一本取られたおもしろい話ですね。

もう一つの話です。

江戸時代から京都は織物、染め物の街です。上京あたりに呉服商を営む老夫婦がいました。子宝に恵まれず、家業をつぐ者がいませんでした。かなりの身代であったので、その親類縁者が夫婦の寄る年波を案じて養子をもろうことをすすめました。そして二十人ばかり養子の世話を受けたのですが、皆、偏屈な老夫婦に辛抱ができず数十日で逃げ出してしまいました。

最後に来た養子は余程の覚悟を決めていたのですが二カ月経ってみると、なるほどこれまでに辛抱する者がいかなかったことがよくわかった。老夫婦の氣むずかしさ



には堪忍できないものがある。もう辛抱の限界だ〴〵と思いつめていた時、老夫婦が大工を呼んで、新しい障子を作り、それを敷居・鴨居に建て合わせるのにあれこれと指図をしていました。家は大分古くなってゆがみが出ていたのですが、大工は障子をはめてみては、障子の上を削り、下を削るなどしてピッタリと建て付けました。

当の養子はそれを見ていて、ハタと気がつきました。

〴〵敷居、鴨居は家を建てた初めよりあるものであり、新たに建て付けた障子は後からのものだ。古いものと新しいものとの関係は、老夫婦と自分のようなものだ。老夫婦の家にいったからには、気に入らないことがあっても、後から入った自分が気に入るように努めるべきだ〴〵と養子は悟ったのです。

〴〵障子の建て付けが悪いからといって敷居や鴨居を削る大工はいない〴〵養子は大工の仕事をみて自分の愚かさを



知ったのです。

それからというものの、老夫婦を懇ろに世話をし、とても感謝され、その末期を見届け、家名を相続したということなのです。

心学道話はこのようにわかりやすい話が多いのです。

法音寺では「堪忍」と言えば村上先生、村上先生と言えば「堪忍」です。その村上先生が一番堪忍されたのが杉山先生御遷化後の仏教化救済会の財産問題です。

会を思う人達の中には裁判をすすめる人もあったそうですが、村上先生は「冷たき法律に依って事態を処置したならば、私の三十年來にわたって修養して来た堪忍の徳もたちまち水泡に帰するのである。必ずやこれは、諸仏善神が私を試験されているのだ」と言われ、裁判をされず、堪忍強く交渉され、円満に解決されました。この



後、支部も増え、会員数も激増しました。正に村上先生の堪忍修行の賜であるかろうと思えます。裁判は争いであり、堪忍破りであるからしない方が良く、というのが村上先生のお考えですが、最近同じことを言われる弁護士に出会いました。

『ベテラン弁護士の争わない生き方が道を拓く』という本の著者・西中務さんです。

西中さんは言われます。「話し合いで解決しないから裁判をするわけですが、裁判をしなくてすむならそれ以上のことはありません。争えば争う程心がすさんできます。また、身体にもよくありません。本来は、争いと無縁の日々を送る方が幸せなのですから。争わずに和解で解決すると、相談者が幸せになるケースが実に多いのです。いかに和解するかを考えることも弁護士の大事な仕事だと思っています」



そんな西中さんですが、若い頃は、争って勝つことが
すべてだ〴〵と思っていた時期もあったのです。しかし、
ある出来事をきっかけに考え方が変わったそうです。
ある大きなスーパーの中で精肉店を営んでいる人がい
ました。スーパーのオーナーから「別の精肉店が入るこ
とになったから、出て行ってほしい」と急に言われ、西
中さんの所に相談にきました。「これは損害賠償金を請
求できますよ」と言うと、その人は「七年間もお世話に
なってきたオーナーに、そういう後ろ足で砂をかけるよ
うなことはしたくない。ただこの先どうしたらよいかを
相談に来たのです」と言うのです。そう言われて若い西
中さんには大したアドバイスがでなかったようです。
その後、その人がどうしたかという、きれいに掃除
をして、入る前と同じ状態にしてオーナーに丁寧にお礼
を言って出たそうです。するとオーナーが、もっと条件



の良^よい新^{あら}しい出^{しゅつ}店^{てん}場^ば所^{しょ}を人^{じん}脈^{みやく}をつかして紹^{しょう}介^{かい}してくれました。新^{あら}しい場^ば所^{しょ}で商^{しょう}売^{ばい}は大^{たい}変^{へん}繁^{はん}盛^{じょう}し、もう一^{てん}店^{ぼだ}舗^ぼ出^だそう
というこ^{こと}にな^なりました。その時^{とき}、前^{まえ}のオ^おーナ^{ナー}から
「戻^{もど}ってき^きてほ^ほしい」とい^いう話^わが^があ^あり、元^{もと}の場^ば所^{しょ}に二^{てん}店^{ぼだ}
舗^ぼ目^めを出^だしたと^ところ、ど^どち^ちら^らも繁^{はん}盛^{じょう}して^いるそ^そう^うです。

こ^こんな話^わもあ^あり^ます。

交^{こう}通^{つう}事^じ故^こにあ^あつた男^{だん}性^{せい}の^{はな}話^わです。その男^{だん}性^{せい}はむ^むち^ちう^うち
症^{しょう}で苦^{くる}し^しん^んで^いて、加^か害^{がい}者^{しゃ}に損^{そん}害^{がい}賠^{ばい}償^{しょう}を請^{せい}求^{きゅう}す^る裁^{さい}判^{ばん}を
起^おこ^こし^したい^いとい^いうこ^こと^とで^した。男^{だん}性^{せい}は身^み体^{たい}よ^よりも精^{せい}神^{しん}が
か^かな^なり^りま^まい^いつ^つて^いて、会^{かい}社^{しゃ}も休^{やす}み^みが^がち^ちに^にな^なり、笑^え顔^がも^も
と^とん^んど^どあ^あり^りま^ませ^せん^んで^いた。西^{にし}中^{なか}さ^さん^んは男^{だん}性^{せい}の精^{せい}神^{しん}状^{じょう}態^{たい}を
心^{しん}配^{ぱい}して、和^わ解^{かい}を^をす^すめ^めま^まし^した。加^か害^{がい}者^{しゃ}に請^{せい}求^{きゅう}で^でき^きる金^{きん}
額^{がく}と^として^は少^{すく}な^なく^くな^なつ^つた^たと^として^も、と^とに^にか^かく^く早^{はや}く^く解^{かい}決^{けつ}し
た^た方^{ほう}が^が良^よい^いと判^{はん}断^{だん}し^した^たか^から^らで^す。

男^{だん}性^{せい}は和^わ解^{かい}に^によ^よる早^{そう}期^き解^{かい}決^{けつ}を^を選^{えら}び^まし^した。



裁判をすれば、一年以上かかるところが数カ月で解決し、ある程度の賠償金をもらうこともできました。するとむちうち症の症状がなくなりました。彼がウソをついていたのではありません。むちうち症は実際に精神的・心理的理由で悪化することがあるのです。またむちうち症からうつ病になるケースも多いそうです。

この男性は和解することで、本当に心が楽になり、身体も楽になったのです。

西中さんによると、交通事故にあった時、1円でも多くとってやろうという考え方をすると、1人、大金が入ったとしても、何年か後にその金額以上の大金を失ったり、トラブルを起こして大きな損失を出したり、身体を壊したりすることが多いそうです。

最後に西中さんの言葉です。

「裁判をしなくてすむならそれ以上のことはありません。



そんなことを言うとは、
「弁護士の仕事はなくなる」と同
業の弁護士から苦情が出るかもしれませんが、争うこと
を焚きつけて勝利を勝ち取り、喜ぶ弁護士よりも、真の
幸せを求めて争わない道を探る弁護士でありたいと私は
常に思っているのです」

「どんな時にも、やはり堪忍が一番ですね。皆さん、堪
忍を身の守りといたしましょう。」



良い教えの話聞きましよう。

全国の法音寺各支院・布教所では
毎月の講話日において

三徳の教えを聞くことができます。

ぜひご参詣いただき、

教えを身心にしみ込ませましよう。

法音寺本山は毎月7日、17日、27日に開催されます。

◆ 今月の山首上人さまご親修日程

| | | | |
|-------|-----------|------|-----------|
| 岐阜支院 | 11月4日(土) | 安城支院 | 11月5日(日) |
| 四日市支院 | 11月13日(月) | 豊川支院 | 11月20日(月) |
| 大阪支院 | 11月23日(木) | 東京支院 | 11月25日(土) |

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

| 支院名 | 今月の講話日など | 住所 | 電話番号 |
|--------|--------------------|-----------------|-----------------|
| 大乘山泰明寺 | 5日・20日 | 名古屋市中村区名駅2-37-3 | ☎(052)581-20069 |
| 開基堂 | 10日 | 江南市寄木町天道18 | ☎(0587)53-5436 |
| 東京支院 | 5日・15日・25日 | 東京都練馬区谷原2-6-37 | ☎(03)3904-1251 |
| 山形布教所 | 10日 | 山形市長町2-4-6 | ☎(023)681-0770 |
| 静岡支院 | 2日・12日・21日 | 磐田市長崎4-7-3 | ☎(0538)32-6625 |
| 豊川支院 | 4日・20日 | 豊川市中野川町1-26-3 | ☎(0533)86-4704 |
| 安城支院 | 5日・18日・28日 | 安城市新田町小山31-25 | ☎(0566)76-2504 |
| 明川支院 | 11日・25日 | 豊田市明川町堂ノ脇1-2 | ☎(0567)32-1825 |
| 佐屋支院 | 4日・11日・24日 | 愛西市大井町浦田面296 | ☎(0586)72-7208 |
| 一宮支院 | 5日・15日・25日 | 一宮市大江1-7-4 | ☎(0568)22-5813 |
| 西春支院 | 2日・11日・12日・22日 | 北名古屋市九之坪東ノ川20 | ☎(058)245-2939 |
| 岐阜支院 | 4日・12日・14日・18日・23日 | 岐阜市切通7-15-22 | ☎(058)388-2740 |
| 笠松布教所 | 13日 | 岐阜県羽島郡笠松町八幡町23 | ☎(0584)78-4854 |
| 大垣支院 | 1日・11日・21日 | 大垣市宝和町5 | ☎(0575)22-0776 |
| 関支院 | 3日・13日・23日 | 関市西福野町2-15-11 | ☎(0575)23-3771 |
| 平賀支院 | 5日・12日・15日・25日 | 関市市平賀2-13-2 | ☎(0575)23-3771 |
| 郡上八幡支院 | 8日・22日 | 郡上市八幡町小野7-21-3 | ☎(0575)65-3933 |
| 四日市支院 | 2日・13日・22日 | 四日市市赤堀2-4-7 | ☎(059)352-3633 |
| 上野支院 | 1日・11日・21日 | 伊賀市上野向島町3-4-75 | ☎(0595)21-0127 |

☎連絡は本山寺務局へ

| | | | |
|-------|------------|-------------------|----------------|
| 京都支院 | 1日・9日・20日 | 京都市上京区北横町360 | ☎(075)231-3437 |
| 高槻支院 | 5日・21日 | 高槻市天神町1-9-2 | ☎(072)685-1003 |
| 大阪支院 | 12日・23日 | 大阪市此花区西九条3-4-41 | ☎(06)6465-5051 |
| 福井布教所 | 18日 | あわら市春宮3-28-2 | ☎(0776)73-5234 |
| 和泉支院 | 5日・14日・22日 | 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404 | ☎(0724)66-3112 |
| 神戸支院 | 11日・21日 | 神戸市兵庫区五宮19-17 | ☎(078)360-4884 |
| 淡路支院 | 5日・25日 | 南あわじ市神代国衙910 | ☎(0799)42-0175 |
| 岡山支院 | 5日・7日・23日 | 岡山市南区若葉町1-16 | ☎(086)262-0818 |
| 高知布教所 | 12日 | 高知市上町5-5-39 | ☎(088)823-1983 |
| 福山支院 | 1日・19日 | 福山市西町3-19-5 | ☎(084)921-3078 |
| 三原支院 | 11日・26日 | 三原市皆実2-9-22 | ☎(0848)62-5087 |
| 安芸津支院 | 4日・19日 | 東広島市安芸津町三津3765-3 | ☎(0846)45-4012 |
| 坂支院 | 19日 | 広島県安芸郡坂町坂東2-24-12 | ☎(082)885-1064 |
| 福岡支院 | 5日・15日・19日 | 福岡市早良区城西2-11-37 | ☎(092)821-7975 |
| 壱岐布教所 | 13日・23日 | 壱岐市石田町池田東触1112 | ☎(0920)44-5445 |
| 筑後布教所 | 12日・26日 | 筑後市大字西牟田5954-1 | ☎(0942)53-7273 |
| 天草布教所 | 1日 | 上天草市大矢野町維和1502-1 | ☎(0964)58-0742 |
| 田川支院 | 12日・26日 | 田川市春日町7-30 | ☎(0947)42-1819 |
| 名古屋地区 | 7日・17日・27日 | 名古屋市昭和区駒方町3-3 | ☎(052)831-7135 |
| 瀬戸布教所 | 9日・19日・29日 | 瀬戸市東本町2-20 | ☎(0561)85-6860 |
| 亀岡布教所 | 13日・26日 | 亀岡市篠町篠牧田73-1 | ☎(0771)25-7807 |

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)



御開山会

平成30年
御開山会

三徳開教百十年
顯修院日達上人第七回忌

御報恩法要

平成30年に三徳開教百十年・顯修院日達上人第七回忌を迎えるにあたり、記念の天童音楽大法要を虔修いたします。
当日は稚児行列やバザー等を実施し、本堂では過去の貴重な映像をご覧いただく等、種々の催しを行うことが予定されております。

期日…平成30年5月13日(日)

5月20日(日)

6月3日(日)

皆さまのご参詣を心よりお待ちしております。

法音寺事務局

特別企画

聖の教え

(二十三)

人身・命

善き悪しき人のさま見て我が心

いかならむかと返り見るかな

御開山上人御詠

◆経典

◆諸の衆生、虚妄に是は此是は彼、是は得是は失と横計して、不善の念を起し衆の悪業を造つて六趣に輪廻し、諸の苦毒を受けて、無量億劫自ら出づること能わず。

無量義經・説法品 一〇頁

◆諸の衆生を見るに生・老・病・死・憂悲・苦惱に焼煮せられ、亦五欲財利を以ての故に、種の苦を受く。又貪著し追求するを以ての故に、現には衆苦を受け、後には地獄・畜生・餓鬼の苦を受く。若し天上に生れ及び人間に在つては貧窮困苦・愛別離苦・怨憎會苦、是の如き等の種種の諸苦あり。衆生其の中に没在して歡喜し遊戯して、覺えず知らず驚かず怖じず、亦厭

うことを生さず解脱を求めず。此の三界の火宅に於て東西に馳走して、大苦に遭うと雖も以て患とせず。

妙法蓮華經・譬喩品 九七頁

◇若し人あつて受持し、讀誦し、其の義趣を解せん。是の人、命終せば、千佛の手を授けて、恐怖せず惡趣に墮ちざらしめたもうことを爲、即ち兜率天上の彌勒菩薩の所に往かん。

妙法蓮華經・普賢菩薩勸發品 三八六頁

◆御書

◇昨日が今日になり、去年の今年となる事も、是れ期する處の餘命にはあらざるをや。總て過ぎにし方を數えて、年の積るをば知ると雖も、今行末に於て一日片時も誰か命の數に入るべき。臨終今に在りとは知りながら、我慢・偏執・名聞・利養に著して、妙法を唱え奉らざらん事は、志の程無下にあえなし。さこそは『皆成佛道』の御法とは云いながら、此の人争か佛道に懶からざるべき。

持妙法華問答鈔 四九五頁

◇數々他面を見るに、或時は喜び、或時は瞋り、或時は平かに、或時は貪り現じ、或時は癡現じ、或時は諂曲なり。瞋るは地獄、貪るは餓鬼、癡は畜生、諂曲なるは脩羅、喜ぶは天、平か

なるは人なり。他面の色法に於ては六道共に之あり。四聖は冥伏して現ぜずとも、委細に之を尋ねば之あるべし。 如來滅後五百歲始觀心本尊鈔 九四六頁

◇人身は受け難し、爪の上の土。人身は持ち難し、草の上の露。百二十まで持ちて名を下して死せんよりは、生きて一日なりとも名を擧げん事こそ大切なれ。中務三郎左衛門尉は主の御爲にも、佛法の御爲にも、世間の心根もよかりけりよかりけりと、鎌倉の人人の口に歌われ給え。あなかしこあなかしこ。藏の財よりも身の財勝れたり、身の財よりも心の財第一なり。此の御文を御覽あらんよりは、心の財を積ませ給つべし。 崇峻天皇御書 一五八八頁

◇命と申す物は一身第一の珍寶なり。一日なりとも之を延ぶるならば千萬兩の金にも過ぎたり。 法華經に依りて定業を延ぶべき事 一七四八頁

◇人の壽命は無常なり。出づる氣は入る氣を待つ事なし。風の前の露尚譬にあらず。賢きもはかなきも、老いたるも若きも定めなき習いなり。されば先づ臨終の事を習つて後に佗事を習つべし。 妙法尼御前御返事 一六八二頁

◆安立大法尼

人界は保釈

法華経譬喩品第三に曰く「常に地獄に処すること、園觀に遊ぶが如く。余の惡道

に在ること、己が舍宅の如く。駝・驢・猪・狗、是れ其の行処ならん」と。

人と生まるべき靈魂は、いつも人間に宿ると心得たなれば大間違いであります。十界のうち

の三惡道、即ち、地獄・餓鬼・畜生は人間ではないのです。日蓮聖人曰く、

「悲しい哉、痛ましい哉、我等無始より已來無明の酒に酔いて、六道四生に輪回して、或時は

焦熱・大焦熱の炎に咽び、或時は紅蓮・大紅蓮の氷に閉ぢられ、或時は餓鬼飢渴の悲しみに値

うて、五百生の間飲食の名をも聞かず。或時は畜生殘害の苦みを受けて、小さきは大きなに

呑まれ、短きは長きに巻かる、是を殘害の苦と云う。——悲しかるべし悲しかるべし」（聖愚

問答鈔・上）と。

これらの苦しみは、人間にあらざる畜類に生を受けての苦しみであります。常にムカムカと

腹立つことが多ければ、地獄の種まきであり、貪欲は餓鬼道の種まき、自分さえ良ければ他人

はどうなるうともかまわぬ、という心持ちで日常の行為をなし、常に足ることを知らずして愚

痴多ければ、畜生道の種まきであります。然るに、人界に生を受けたる者にも、関東大震災の

如く、猛火に焼かれてこの世からなる焦熱地獄を現わしたのであります。また、世の中には、

失業のため飢餓に迫られ、あるいは、わずかの財産も他人に横領せられ、病を得たれど世話す

る者もなく、犬猫同様の死様を致す等、畜類にも劣った境涯にて一生を終る者もあるのである。りまして、今生にはさしたる悪事もせざるにこの苦しみに遭うのでありますが、如何にも不審に思われます。

斯くの如きはすべて、過去永劫の罪業の現われに外ならぬのであります。これらはいわゆる、三悪道にてその業因を果たさずして仮りに人界に生を受けたのであります。これを保釈と申すのであります。ちようど、国法を犯して入獄したる者が、仮りに出獄したるを保釈というが如く、その罪業に相当する果報を終えずして、人界に生を受けたる者であります。

保釈出獄者は謹慎して、行ないを正しくせねばならぬのであります。保釈にて人界に生を受けたる者も、自分の保釈なる所以を悟り、行ないを慎み、善根功德を積み、必ず罪業は次第に消滅して晴天白日となり、幸福が来るのであります。

思うことが思うようにならず、災難から災難にて泣く人は、すべてご自身が保釈であることをご自覚ください。これを自覚せずして世を儚み、人を憎み、恨み、なおさらに貪り、人を軽しめたなれば、現世の悪因と過去の悪因とともにその報を受けて、三悪道に苦しまなければなりません。その時、如何に悔ゆるとも遅いのであります。どうかこの理をお悟りあって、善因を積むことに努力してください。

◆宗玄大徳

人生は仮の宿 暮れゆきて明けるを喜ぶ若人にも、過ぎゆく歲月は、一歩一歩我が身が臨終に近づくの道程であります。この理は、たとえいかなる立場の人といえど、生を受けたる者の決して免れ得ざることであります。この人生のはかなきことを説いて教主釈尊が「一生はただ一夜の仮の宿なり」と教えられたことは、実にもと思われることであります。わが魂は、久遠の昔に仏の徳に依って進化してより以来今日に至り、なお未来永遠に滅することなく生きてゆくのであります。

人生は、この魂が人という体に入った時を言うのであります。また、畜生その他に入った時には各々その形によってそれぞれ名称を付され、各々の受けたる身によって苦楽を受けるのであります。されども過去無数劫に造りし悪業の因縁を消滅し、功徳を積むことのできるのは、独り人身を受けたる時に限るのであります。しかし、人生を受けたりといえども功徳を積み悪業の因縁を消滅する方法を教える人師に会わざる時は、いわゆる醉生夢死にこの尊き人生を終るのであります。今幸いにしてお互いに受け難き人身を受け、値い難き妙法に会えたのでありますから、この上の喜びは無いのであります。

一夜の仮の宿のようになわずかの歳月に無量の徳を得たならば、この魂は未来永劫に楽を受けるのであります。またこの法に会わざる者や、法を信ぜざる者は、無為に明かし暮らすのみか、

かえって悪業を重ね、永遠に魂の苦しむ因を造るのであります。世の人々は平和を願ひ、福德を希うといえども、知らず知らずの内に悪業を重ねて善根を積まざるが故に、善きことは到底来らぬのであります。

村上先生御法話集（一） 一一一頁

臨終の事を習うて後に佗事を習うべし 人界一期の清算期とも称すべき臨終において後悔せざる者を賢人・聖人と言うのであります。日蓮聖人は「臨終の事を習うて後に佗事を習うべし」（妙法蓮華御前返事）と教えられています。今臨終のその時に平素積み重ねたる財宝が、後世の悔い・悲しみの種とならぬようにとの理を、心の底に深く思うて、今生の執着に執らわれざることこそ肝要であります。

されども一般民衆は、とかくにその未来の善果を思わずして、ただ目前の色彩のみに執られ、臨終を習わずして今日はこのこと、明日はかのこととのみ思うて、尊き人生をも無意味に終わってしまうのであります。

教主釈尊は例をもって「衆生とてわれら人間は、あたかも苦海という泥海に浮沈して、彼の岸は見ゆるといえども泳ぎつかんともせず、その上泳がなければならぬその手には、玩具や花束をしっかりと握ってそれを離そうとしない。たまたまた天より声あつて『その花束や玩具を離して彼の岸に泳ぎつくべし。そこには安楽なる世界があるぞ』と聞こえるにもかかわらず、握

りたる玩具を離さずしてついに海底の藻屑となり果てる悲しさよ」と示されています。

今、手に持ちたる玩具等はこの上もなく衆生の喜ぶものでありますが、これをいつまでも握り来らんには、ついに我が身は溺るるの外なく、その場合に、手にせし玩具は何者の所有でありましようか。実に我が身体さえ自己の自由とはならざるものを…。

この娑婆世界に住める衆生はまたまたかくの如く、苦海という娑婆世界の諸々の憂悲苦惱を逃れて彼の岸という、安楽の場所にたどりつかんと願望はあれども、無知の悲しさに、その岸のいずこなるやも知らず、なおさらにこれを見て哀れみ給えるみ仏は、その手に持ちたる玩具を捨てよと声の限り呼ばわれども聞かずして、ついに海底の藻屑となるは実に悲しいことであります。この理をよく悟りて、この世の執着たる玩具を手離して、彼の岸に一日一日と近づくように努力するこそ、まこと人生の真意義を得たるのであります。

村上先生御法話集(一) 一三三頁

◆御開山上人

迷いと覚り

迷う時は衆生と名け、覚る時をば仏と名けたり。(一生成仏鈔)といわれてお

りますように、迷った人とはどんな人のことでしょうか。それは、
一、自分のためにならぬようなことをする人。

一、自分が困り苦しまねばならぬことをする人。

一、自分が難儀な状況になるように振舞う人。

これは誰が考えても、愚かなことです。覚った人は、

一、自分のためになることをする人。

一、人に喜びを与えて、自分が喜ぶ人。

一、自分の徳となる善行を積む人。

です。仏様は、自分が困り、苦しむ原因となるような行ないはやめて、自分のためになる行ないをさせたいと、教えを施されたのであります。自己中心の考えで貪りをするのは、自分のためにならず、自分が困る原因となります。

話の泉 一一頁

仏の子として 無量義経・十功德品に「憍慢多き者には持戒の心を起さしめ」とあります。

憍慢というのは、本当のことを知らずに知ったふりをしてしている人で、世の中の人はこうありがちです。正しい教え、正しい目標もなく一生をおわったならば、まことにあわれむべき者となってしまうます。「到彼岸」の事実を思うならば、少しぐらい物事を知ったというだけでは、物の数にはなりません。自分の一生は菩薩修行であり、仏の子としての修行をせねばならぬと思わなければなりません。そして、世の中の迷っている人々を自分の力の及ぶところで救い助

けねばならぬのでありまして、実に容易ならぬ大きな仕事と責任があるのであります。これは容易な仕事ではありません。

教えには三つの区別があります。第一は法則、第二は教法、第三に真理というように分けることができます。

一、法則 人として暮らすには、規則を守り、おたがいに迷惑をかけないように、助け合うようにせねばならぬのです。親は大事にせねばなりません。老幼はいたわらねばなりません。急いでいてはなりません。正直でなければなりません。人の物を盗んだり、嘘を言っはなりません。淫をしてもなりません。これは人としての一通りのきまりであります。神の教えなどはこの規律を教えています。

二、教法 其の善き行ないをだんだん進めてゆくには、だんだん高い教えを教えて、善い行ないをのびし、向上させてゆかねばなりません。仏の教えで申しますなら、小乗、権大乘の教えからだんだん高い教えに近づけてゆくのであります。

三、真理 此れこそ本當に意義ある暮らし方、永遠の真相を示している大乘妙法蓮華經の教えに照らされたものであります。この教えによって、自分の一生はどんな暮らし方をしたらよく真実の相で暮らすことができるか、ということを経ることです。それと共に、自分は末代の凡夫だと思っていたがそうではなかった。仏の子（仏子）であった、ということを知ること

が肝要です。そして、仏の子らしい行ないをせねばなりません。人を助け救い、自分の働きで世の中の人々を幸福にする、そういう働きをせねばならぬと自覚し、働いてゆくようにならなければなりません。

現代生活の指針 六九頁

◆日達上人

「自利」と「利他」の違い 一代で財をなし、社会的にも相当な地位を得た人がいます。事業も安定し、後継者も育ち、家族にも恵まれ、本人も健康で、外から見れば何一つとして不足のない人に思えるのですが、その人が先日しみじみと「私の一生はいったい何だったのだろう」と言われました。話を聞いてみますと、つい先頃友人を亡くしたというのです。すべてが順風満帆で、「死」などということはついぞ考えたことはありませんでした。ところが、親しい友人の死を目のあたりにして、自分も死ななければならぬことに気が付いたのです。いざ死ぬとなると、今まで営々として築いてきた地位も財産も家族も、みんな置いてゆかなければなりません。あたかもそれは、おいしいものを食べ残すようなもので、残念で仕方がない。とその人は言うのです。こうした思いに苦しむのは、今までの人生が自分の幸せだけを考えた「自利行」のみにあったからです。自分の幸せ、家族の健康、地位・財産・名誉といった、いわば自分を中心とした考え方は、ある程度まではよいのですが、ある一点までゆきますと突然、突

き当たってしまいます。

自利だけを中心にしてきた人にとっては、自分の死を考えたとき、今まで価値あるものと信じ、人生最大の目的として求め続けてきたものすべてと別れ、一人で死んでゆかなければならないのですから、先は真っ暗、今までの自分の人生自体が何であったのか、さっぱりわからなくなってしまうのです。

自利ということだけを追ってゆきますと、最後の肝心のところで行き詰まってしまいます。どうか、自分の利を求めると以上に他の人の利を図る「利他行」をお考え頂きたいのであります。

『月刊法音』第一九六号 五頁

本当の幸せを求めるとは、はつきり言えば私共の一生は一度限り、今いる自分のその場がすべてです。ですから、相手の人とかモノの中に幸せを求めても、叶えられるとは思えません。

そうした無駄なことに力を費やすより、自分の今ある姿をしっかりと見つめることです。そしてその中に、喜びを見つけてゆくのです。何か面白いことはないだろうか。いいことはないか。もうかる話はないか。と求めてばかりいると、いつまでたっても本当の幸せは見えません。安立大法尼以来の教えは、私共は、菩薩行をするため、他の人を喜ばせ、徳を積むためにこの世に生まれてきた。ということ。これは、息のある以上、生きている以上、続けてゆか

なければならぬことです。自分の仕事を通し、立場を通して少しでもまわりの人を喜ばせ、徳を積んでゆくのです。その行為は、人の目にふれるかどうか、人が気付いて感謝されるかどうかわかりませんが、誰に認められなくとも、いろいろなところで、いろいろなこと、言葉で、行ないで、人のために尽くしてゆくのです。

生きている以上、たとえ病気で寝ていても、徳を積むことはできます。言葉で、お世話頂いている方に感謝を表わせば、それが言葉の施しとなります。

目の前には、いいこと悪いこと、いろいろなことが起こりますが、どんなことでも喜びに変え、徳を積む方向に変えてゆくなら、必ずよくなります。これが、信仰をする、ということ、す。毎日を、ありがたいな、という心で生きてゆく中に、本当の幸せが生まれてくるのです。

『月刊法音』第二四五号 一一頁

三徳は心の榮養 日蓮聖人の御書に「命と申す物は一切の財の中に第一の財なり」（事理供養御書）とあります。生きているその基は命であります。人には肉体と心の健康が大切です。肉体を保つには呼吸と食事が大切です。肉体の循環をよくするためには、手足をよく動かすことです。一方、心の健康のためには、心の榮養を取り、それを生かしてゆく行ないが必要であります。心の榮養、それは法華経・三徳であります。

なぜ三徳を実行しなければならぬのか。どうして慈悲・至誠・堪忍が必要なのか。それは、私達が幸せになるために必要不可欠なものだからです。唯識論によると、私達は生まれながらに、心の病人であると言います。その病源は「末那識」であります。「末那識」とは我欲であります。それが表に病氣として現われたのが、貪・瞋・痴であります。

生きていると楽しいことも少しはありますが、辛いこと、苦しいこと、悩むことの方が多いものです。衣・食・住の問題、人間関係のこと、家族のこと、職場のこと等、悩みはつきないものです。これを無くし、良い方向にもってゆくには三徳の実行しかありません。

三徳を実行し続けると、オレガという心が変化してゆきます。ほっておくと我が強くなり、人を困らせ、自分を困らせるもとなりです。いろいろな形で施しを続け、慈悲を実行し続けてゆけば、だんだん心が広くなり、何事にも、ありがたいな、という心ができてきます。ありがたいと思う心ができてくると今までの悩みも半減し、悩みが多少あってもあまり気にしなくてもよいようになります。生きてゆく上で、いやいや生きてゆくと、広い心で積極的に生きてゆくのは大きなちがいです。三徳の大道を、変わらない幸せを目標として歩もうではありませんか。

ふいのはの記

悟れば仏、迷えば凡夫

「よく家計や経済状態が苦しくなると『火の車』って言うけど、どういうことなのかな？」

「もともとは仏教語の『火車^{かしゃ}』が由来なんだ。火車とは火の燃えさかった車のことで、鬼が生前悪行を働いた人を入れて地獄に運ぶとされているんだ。その道行きはひどい苦しみを味わうことから、苦しい状態のことを『火の車』と言うようになったんだよ」

「そんな車に乗って地獄に送られるなんて恐ろしいね」

「でも、地獄と極楽は、同じところにある」とお寺で聞いたことがあるよ」



「そうなの？極楽は雲の上にあって、地獄は地の底ってイメージがあるけど…」

「お上人さまがおっしゃるには、地獄・極楽はあの世の話ではないようだ」

「自分勝手に、腹を立てても平気で、堪忍もせず、お話も聞かず、善いことは一つもしない場合、火の車ができて、ついにはその家が地獄になってしまいます。仏さまのお話を聞いて、一生懸命に信仰して、堪忍をして、毎日が思うようにいかないけれど、今日一日はみんなを親切にしていこう、ということになる、その人が仏になって、そこが極楽になります。滅茶苦茶をしているとそこが知らないうちに地獄になってしまうのです」(御開山上人述)

「なるほど、地獄・極楽は今、自分達が生きている世界の



ことなんだね」

「自分の心掛け次第で、私達が暮らしている場所が地獄にも極楽にもなるというのが仏さまの教えなんだ」

「家族が喧嘩ばかりして、仲が悪ければ、家においても苦ししい、わが家が地獄になったらつらいだろうなあ…」

「みんなが仲良くして、自分の家を極楽にするには、お互いに親切にし合うことだね」

日蓮聖人は「悟れば仏、迷えば凡夫」と御遺文の中で述べておられます。

「衆生の心汚るれば土も汚れ、心清ければ土も清しとて、浄土と云い穢土と云うも土に二つの隔てなし。只我等が心の善悪によると見えたり。衆生と云うも仏と云うも亦此の如し。迷う時は衆生と名づけ、悟る時は仏と名づけたり」

『一生成仏鈔』



(注)穢土：汚れた国土・迷いから離れることができない
衆生の住む世界。

「仏さまという人は、『どうか世の中の人を地獄の者、凡夫の鬼にしてはいけない。何とか極楽にして、みんなを仏さまと同じような喜ばれる良い人になりたい。死んで未来の世に生まれても、楽しく暮らせるようにしたい』と思って、一生懸命教えをお話しになってくださるのです。たくさんお経はありますが、結局は皆、この『迷・悟』の二つ、『迷ってはいけない』ということが教えられているのです。そうすると、自分も楽しいし、子どもも良い子になります」

(御開山上人述)

せっかく尊い教えに出会えた私達ですから、日々意識して三徳を実行し、今いる場所を極楽にしていきましょう。



読者の声



私の神通掛け

堀場温子（名古屋地区）

平成19年7月に、兄が脳梗塞と診断されて即入院し、治療を受けました。2日程前から兄の行動がおかしく、なぜかなと不審に思っていました。テーブルの角で体をぶつけたり、敷居につまづいて転倒したりしていたので「病院へ診てもらいに行こうよ」と声を掛けましたが、兄が「一人でいつて来るから」と車で出かけました。しばらく経って「先生が家族の人と話したいと言っている」と兄から電話がありました。急いで病院へ駆けつけ、兄と一緒に脳のレントゲンを見ました。先生から「この何処に梗塞があるかわかりますか」と聞かれましたが、私には見当がつきませんでした。レントゲン画像を拡大してくださり、指をさされた所に小さく白く映っていました。「早くに気づきましたね。どのようにわかりましたか」と聞かれて前述したことを伝えました。「良かったですね。早期に見つかったので軽く済みますよ」と言ってくれました。お陰さまで10日もたたずに退院することができました。病院では心の中で一生懸命お題目を唱えていました。夏の病院通いは辛かったので、ほっとしました。退院後、兄はとても不安そうで

夜になるのが怖いようでした。そこで兄に聞いて神通掛けをさせてもらうことに。そのうちに兄の方から「悪いけど神通掛けしてくれる？」と私の前に座るようになり、うれしくて涙が出てきました。

その後1カ月位経った頃、兄の顔の変形が見る間に起き、右の唇がゆがみ、食べ物を吐き出してしまいました。『また脳梗塞かな？』と思い、急いで病院へ行って診察を受けると「耳の中にウイルスが入り、ヘルペスになっています」とのこと、入院することになりました。先生は「必ず治るから心配しなくて大丈夫です」と言ってくれました。やがて、顔のゆがみも少しずつ治り、少し後遺症が残りましたが、ほとんど元に戻りました。とてもありがたいと思います。

日達上人の「徳積みは生きている時しかできないので、一生懸命お徳を積んでください」とのお言葉に、ありがたく徳積みをさせていただいております。

以前から続けていた唱題行をお勤めの後に実行しています。これからも微力ながら周りの方に喜んでいただけるよう、三徳の実行をしていきます。

大難を奇しくも防ぐみ仏の

法のとうとさ誰か知るらむ

《宗玄大徳御詠》





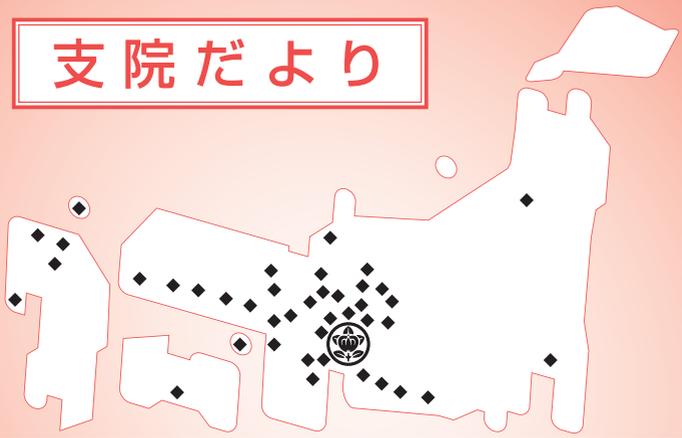
のりのもも西に東に 転法輪



『汝等如來の滅後に於て、應當に一心に受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行すべし。所在の國土に、若しは受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行することあらん。若しは經卷所住の處、若しは園の中に於ても、若しは林中に於ても、若しは樹の下に於ても、若しは僧房に於ても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在つても、若しは山谷・曠野にても、是の中に皆塔を起てて供養すべし。所以は何ん、當に知るべし、是の處は即ち是れ道場なり。諸佛此に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、諸佛此に於て法輪を轉じ、諸佛此に於て般涅槃したもう』

〔妙法蓮華經・如來神力品第二十一〕

支院だより



災害ボランティア

災害支援部会

福島県南相馬市

9月8日から11日にかけて、13名の参加者で福島県南相馬市へボランティアに行きました。

8日午前9時、本山にて交通安全・作業安全祈願のお勤めをし、マイクロバス1台で出発。途中、休憩を取りながら南相馬市をめざし、午後5時頃に宿泊所に到着しました。

9日は宿泊所を午前7時45分に出発し、8時30分頃に南相馬市ボランティアアセンターに着きました。南相馬市は、東日本大震災で大きな被害を受けましたが、昨年の7月12日に帰還困難区域を除いて避難指示が解除され、少しずつ街に活気が戻ってきました。しかし、年月が経過するにつれ、ボランティアの数は減少しています。震災直後には約4千人いたボランティアも、平成29

年9月は約450人です。

この日の活動場所は津波の被害が大きかった地域です。センター長から「洪滞している車の列に津波が押し寄せてきたため、逃げ遅れて被害が増えました」と説明がありました。作業を始める前に参加者全員で亡くなられた方々へ黙祷を捧げました。

作業内容は庭の草木の伐採でした。まず草刈り機で小さな草を刈り、ノコギリで細い木を切り、最後にチェーンソーで太目の木を切り倒しました。刈り取った草木は軽トラックに積み込み、集積所まで運びました。依頼された作業を終え、「余裕があればやってほしい」と言われていた作業に取り掛かると、センター長が「さすが法音寺さん」と感心してくださいました。

10日は仮設住宅周辺の草を刈る作業でした。敷地面積がとても広く、また用水路もあったため、足場が不安定で

簡単ではありませんでしたが、草刈りはもうお手の物で、作業はどんどん進んでいきました。

終了後、茨城県水戸市の宿泊所に向けて出発し、午後8時30分頃到着しました。

11日は法音寺に向け、午前8時に出発。洪滞もなく午後3時頃、無事に帰着しました。

活動をした2日間ともお天気に恵まれ、全員怪我も無く帰ってくることで、充実したボランティア活動となりました。

福岡県朝倉市

9月30日から10月3日の4日間、福岡県朝倉市の「朝倉市災害ボランティアセンター」で活動をしてきました。今回は男性9名で、ワゴン車1台で向かいました。



朝倉市災害ボランティアセンターにて

30日は午前8時に集合し、本堂に向かってお題目三唱をして出発。途中休憩を取りながら目的地の福岡県朝倉市をめざしました。午後7時頃に朝倉市の宿泊所に到着。

10月1日は、「朝倉市災害ボランティアセンター」に登録し、活動しました。朝倉市は本年7月5日に発生した九州北部豪雨により大きな被害を受けました。広範囲に浸水や家屋の倒壊等の被害が出ており、避難所での生活を余儀なくされている方が多数いらっしゃいます。

この日は、浸水した家屋の家財道具と倉庫内の物を仕分けする活動でした。燃える物・燃えない物・金属・陶器・ガラスなど細かく仕分けをします。仕分けした物はトラックに積み、処分場へ運び込みました。結果的に2トトラック4台分の物を処分し、家の中や倉庫内をきれいにすることができました。活動前にボランティアセンターの方から、「たとえ水に浸かった家財道具でも、お家の方にとっては思い出のあ

る品が多数あります。もう使わない物だからといって、雑に扱って依頼者の方を悲しませることのないように心掛けてください」とお話をいただきました。そのお話を聞き、相手の立場に立つて行動することの大切さを改めて自覚することができました。

2日は「支援物資配り」でした。九州北部豪雨発生から3カ月が経ち、9月下旬からようやく仮設住宅への入居が始まったそうです。まだ建設中の仮設住宅もありますが、現在入居しておられる世帯が7軒。また、市がアパートを借り上げてそこに入居してもらう「みなし仮設住宅」には約220軒の入居があるそうです。約300世帯の方々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。

今回、朝倉市内の3カ所の仮設住宅を回らせていただき、77軒のお宅に一軒一軒手渡しで物資をお届けしました。物資をお渡しする際に、被災者の方とお話をさせていただきました。

「被災したのは辛いことだけど、こう

して私達のことを気にかけてくださる人が全国にいると思うと勇気づけられるよ」

その言葉を聞いてとてもうれしく思うと同時に、これからでもできることでお役に立ちたいと思いました。



秋季彼岸会

坂支院Ⅱ秋季彼岸会

利他行で家庭を極楽に

お彼岸にはまだ少し早い9月10日、秋季彼岸会が行われました。

法要後、三宅上人は「彼岸は幸せの世界で極楽です。此岸は不満足の世界ですが、三徳の実行で彼岸になります。堪忍が極楽への道です」とお話しくださいました。また岡山・梅田上人は「8月の指針『利他』にもあるように、自分のことはさておき、先に人を喜ばせてあげましょう。主婦の仕事

午前中で活動が終わり、朝倉市から広島県東広島市の宿泊所まで移動し、午後6時に到着。

3日は宿泊所を午前8時に出発し、午後3時頃法音寺に帰着しました。今回の活動で改めて「ボランティア

お彼岸は「幸せの種」をまく日です

も『利他行』なのですよ」とご教化くださいました。

大垣支院Ⅱ秋季彼岸会

慈しみの心を学びました

残暑の厳しい9月10日午後1時より、秋季彼岸会が行われました。

朝から奉仕者が集まり、支院内外の清掃と準備、ご供養の袋詰め、食事の

はするのではなく、させていただく」ということを学ぶことができました。日常の中でも、相手の立場に立って考へ、行動することが徳積みの第一歩になるのだと思いました。

主婦は、自分のことより家族のために一生懸命尽くしています。日々の生活の中での『利他行』で自然に徳を積むことができ、家庭を極楽にしているのはとてもありがたいことだと思いました。(通信員 笹原真由美)

準備など、ご奉仕されました。

正午より大勢の方がお越しになり、早速準備された食事と、奉仕者お手製の漬物を召し上がられました。日曜日

とあって、家族揃って、また近隣支院や遠方の方もご先祖さまのご供養のため来院されました。

ご宝前には三先師・日達上人、是性院日重上人（香村浩学上人）・檀信徒各家諸霊位のお塔婆が立てられ、午後1時より香村上人導師のもと彼岸法要が厳修されました。

法要後、上田常信上人は「観世音菩薩」について、逸話を交えてわかりやすくお教えくださいました。そして、いつも読んでいるお経の内容をご説明くださいました。また、「身体が不自由な方もそうではない方も、皆さん大切な役割をお持ちです。人は自分の苦しみを発することは多いですが、相手の苦しみをわかろうとすることは少ないものです。慈しみの心を持って相手を見ることが大切です」とご教化くださいました。

ご法話の後、皆さまお茶のご接待をいただき、慈しみの心を学んでお帰りになりました。

皆さまのご供養がきつとご先祖さま

方に届いたことと思います。

（通信員 姫田拓男）

田川支院 秋季彼岸会

「実行」を自分に言い聞かせました

9月10日、西春・渡辺上人をお迎えして、手嶋上人導師のもと秋季彼岸会が執り行われました。

内陣に祀られたお位牌が、檀信徒の方々をうれしそうに見つめておられるような気がしました。今年もこの日を迎えることができ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

手嶋上人は、ある方のご主人が他界されたときのこと、お墓に納骨されるにあたり「一晩はご自宅に置いてくださいね」と話され、翌日納められるよ

うにしたとのこと。「その心が大切です。お互いに支え合って暮らしてこそ人生です」とお話しくださいました。

続いて渡辺上人は「今起きていることは過去世で行った結果です。今、行っていることは未来に必ず現れます。なにごとも自分の因縁、今を大切に生きていくことです」とご教化くださいました。

今この時を大切に、お題目を唱えなければ……。『実行、実行』と自分に言い聞かせました。（通信員 海野和子）

四日市支院 山首上人さま、ご親修 秋季彼岸会

皆さんの笑顔に明るさが満ちていました

雲一つない青空が広がった9月13日、山首上人さまをお迎えして、秋季彼岸会が行われました。平日でしたが、遠

方からお越しの方や、ご家族と一緒に来られた方、また久しぶりにお顔を拝見できたご高齢の方もおられ、彼岸会

ならではの雰囲気を感じられました。

午後1時30分、山首上人さま大導師のもと法要が始まりました。散華の舞うご宝前はやはり荘厳です。お自我偈の訓読が始まると、皆さんはご先祖さまを追善し、心を込めてお焼香されました。

法要後、祖父江上人より彼岸にちなみ、六波羅蜜の「仏智」について『『仏さまの智恵』』につながっていくにはよい心を遣わせていただくことです。よい心を遣うには三徳を実行し、功徳を積んで精進していくことが大切です」とお話しいただきました。

山首上人さまは、「気持ちの持ちよう、心の有りよう」について、著名な方々の考え方や生き方にふれてお話しくださいました。物事を楽天的に明るい側面からとらえ、困難をも楽しみ、事態を好転させていった生き方にただただ感心するだけの私達に、「ほめ合う習慣を身につけると、楽天的になっ

ていきます。ある追跡調査によると、楽天的な人は長生きの傾向にあるそう

です。ぜひ、ほめ合って日々を過ごしてください」と、身近なお話を例にご教化くださいました。ユーモアを交えてのわかりやすいお話に、皆さんのお顔には明るさが満ちていました。

その後、特別加持をお受けし、喜び

一宮支院 山首上人さま 親修・秋季彼岸会

今日彼岸菩提の種をまく日かな

9月15日、山首上人さまご親修のもと秋季彼岸会が厳修されました。

自然は暦通り、彼岸花の赤い蕾を覗かせてくれました。

今日はお彼岸と山首上人さまご親修の二重の喜びの中、皆さんご奉仕に一生懸命です。名古屋・大垣・関からも多くの方が来院され、送迎もフル回転。

大勢の方々にお越しいただき、喜び合いました。お抹茶のサービスがあり、また昼食のご供養には、牛蒡のご飯・冬瓜汁・昆布巻・カボチャ・果物等がありました。牛蒡のまぜご飯が好評でおかわりにテンテコマイ、信者さんの

がさらに増しました。

帰りには、おはぎのご供養も用意され、身も心もさわやかな秋を感じた、ありがたい一日となりました。

(通信員 服部薫 代 加藤成子)

丹誠込めて育てられた新鮮な野菜のご供養にも感謝しました。

午後1時30分、山首上人さま大導師による法要が厳粛に行われました。心が引き締め、感謝の念でいっぱいです。皆さま、今日彼岸菩提の種をまく日かなの心でお焼香されたことでしょう。

山首上人さまは、「会社にも寿命がある」という内容で「長寿の会社には、世のため、人のための心掛けがある。会社も菩薩行、我々も菩薩行しなければならぬ」とお話しくださいました。

特別加持で体も軽くなり、今日のお

話をもとに日々の菩薩行に精進することとを誓い合い、解散しました。

(通信員 今枝文子)

平賀支院Ⅱ秋季彼岸会

「皆共成仏道」を目標にします

9月15日午後7時より、秋の彼岸法要が後藤上人導師のもと奉行されました。

法要後、後藤上人は「この世に出していただいたご先祖さま、両親にご恩返しができることは、しあわせです。一日生きたら一日分成長できます」と

お話しくださいました。続いて三宅舜学上人は、今春の信行道場入行の体験より「周りの方々に助けていただいて、無事修了できました。感謝の気持ちを忘れずに、皆さまに喜んでいただけることを実行して参りたいと存じます」

とお話しくださいました。また郡上八幡・渡辺上人は「ありがたいという心を、自分だけのものにならないで、周りの人に分けられるように、徳の貯金を積んでください」とご教化くださいました。

白露も過ぎ、支院の周りには曼珠沙華の赤い花も咲き始めました。御法の輪の中に身を置き、先祖供養をされたご参詣の皆さま。「皆共成仏道」を目標に、今日一日の精進に励まれることしましょう。
(通信員 加藤寧子)

福山支院Ⅱ秋季彼岸会

台風接近にも負けず

9月17日、京都・安藤順法上人をお

迎えして、宮崎上人導師のもと秋季彼

福山支院の秋季彼岸会の日



岸会が執り行われました。台風接近中にもかかわらず、多くの方がご参詣されました。

当日は午前9時より女性会の方々によつて、おはぎ作りが行われ、おいしそうなおはぎができました。

午後2時から法要が営まれ、参詣された方々は手を合わせ、読経中、感謝してお焼香されました。法要の後には、たくさんのお徳をいただかれ、皆さん穏やかな表情をされていました。

その後、宮崎上人より「台風接近の中、早めの新幹線で順法上人はお越しくださいました。皆さんもよくお参りくださいました」とご挨拶がありました。順法上人は「すべての人が成仏できるのが法華経です。その教えを信じ、起こること（因縁）を『ありがたい』と喜んでください。仏さまの智慧をいただけます」と、ご教化くださいました。

行事が終了する頃、雨音が強くなり始めましたが、皆さん笑顔でご供養のおはぎを召し上がられ、それぞれ家路

に就かれました。

三先師・日達上人・山首上人さまの大きなお徳をいただいたお陰で、両風が本格的に強まる前に行事を無事に終えられたことに感謝しました。

安城支院 山首上人さま、ご親修・秋季彼岸会

あたたかい空気が本堂に流れました

各地へ大きな影響をもたらした台風18号。当地でも明け方の短い時間帯、激しい風雨に見舞われました。しかし、ありがたいことに当支院では自然災害に対しては常日頃から、地震消滅、台風消滅、災害消滅等の祈願をさせていただいています。先師のみ心を我が心として、自分達の身辺ばかりでなく、遠く離れた多くの人々の安全、災難消滅をも広く祈願して、お題目をお唱えいたしました。

お陰さまで9月18日は一転して、台風一過の澄み切った青空のもと、山首上人さまをお迎えして秋季彼岸法要が厳修されました。

秋季彼岸会を通して、「菩薩行」の実践が大切であることを心にとめ、実践していくことを誓いました。

(通信員 砂田裕章)

「お彼岸には山首上人さまの御親修です。お徳をいただいでください」と人から人に伝えられて、当日はとても大勢の方々がご参詣されました。

法要後、山首上人さまはご法話で「緊張する心」についてお話しくださいます。「緊張して真剣な心で物事を行うことが周りの人に大きな感動を与えます」と、いろいろな方の事例をあげ、心を引き締めて一心に行うことの大切さをご教示くださいました。「緊張する心も良いこと」とお聴きして、何かほっとしたような、ほのぼのとした、あたたかい空気が本堂に流れました。

その後、特別加持をしていただきました。大勢の方々が山首上人さまのお近くまで進み、まさに緊張の心でお徳を頂戴しました。



安城支院の秋季彼岸会

穏やかな晴天に恵まれた彼岸会。ご先祖さまとご参詣の皆さん共々、諸仏善神・三先師・日達上人・山首上人さまの大きなお徳に包まれた秋の一日で

豊川支院Ⅱ秋季彼岸会

彼岸花が笑顔で見送ってくれました

9月20日、秋季彼岸会が三宅上人導師のもと厳修されました。

厨房は朝からご供養のおはぎ作りや、夕食に振る舞われるカレーライスの準備で大忙しでした。

午後7時45分、大太鼓とお題目の聲が本堂に響き、師衆が昇堂されました。声明とドラ・ハチの余韻が、廣宣院殿安立大法尼・弘教院殿宗玄大徳・泰山院日進上人・顕修院日達上人・檀信徒秋季彼岸供養、そして泰真院日義上人（小森啓学上人）・大高妙好法尼の7基の大塔婆にふれ、立ち上るお焼香の妙香が、内陣から外陣へ流れ降りると、本堂は彼岸の世界になりました。

法要後、三宅上人は「此岸は愚痴の

した。仏さまにご守護をいただけますよう、さらなる三徳実行をお誓い申し上げて終了しました。（通信員 位田久子）

世界。彼岸は喜び、ありがたいという世界。私達の家庭を喜びの彼岸の家庭にするには、人に求めるのではなく、与え施すことです」とご教化くださいました。また島田知教上人は「三徳の話を聞くだけでは徳になりません。実行し、徳の貯金をしていくと、徳が回るようになります」とお話しくくださいました。

彼岸の時期は空気がこののほかすがすがしく感じられます。昼はお墓参り、夜はお寺へと、街中が感謝の気流で満ちているためでしょうか。帰途の道すがら、明かりに照らされた彼岸花が笑顔で見送ってくれました。

（通信員 鈴木康昭）

安心を与える言葉の大切さを学びました

9月20日、彼岸の入りの日に東京・猪原上人をお迎えして、秋季彼岸会が営まれました。「暑さ寒さも彼岸まで」と言われますように真夏の猛暑日とはうって変わり、随分と過ごしやすい気候となりました。

午後2時、安藤上人導師のもと秋季彼岸会の法要が始まりました。唱題と太鼓の音とともに散華が舞う中、お上人方が昇堂されました。読経が始まり、ドラとハチが鳴り響くと本堂全体が緊張感に包まれます。その中を参詣者一人ひとりが三先師・日達上人、ご先祖さまへの報恩感謝の心でお焼香されました。

法要後、猪原上人は、顕修院日達上人のお話の中より「余命宣告されたお婆さんが一人のサラリーマンと出会い、安心を与える言葉を掛け続けるうちに自らの寿命も延びた」という例をご紹介

してくださいました。人に安心を与える言葉（無財の七施の中の言辭施）がいくかに大切かを改めて教えていただきました

西春支院Ⅱ秋季彼岸会

愛情を重ねることの大切さを学びました

9月21日、午前中に行われた敬老法会に続き、午後1時30分より秋季彼岸会が渡辺上人導師のもと厳修されました。背の高いお塔婆5本が整然と並べられ、私達を見守っていてくださるよう感じました。

ご宝前の和ローソクがゆらゆらと燃え、読経が力強く堂内に響く中、参詣の皆さんが次々と香を手向け、白い煙が上っていききました。大変ありがたいひとときでした。

法要の後、9月生まれの方の誕生会がありました。今月は7名です。一人

した。

その後、小宝前にて「手作り抹茶わらび餅」と「ちくわ天うどん」のご接待をいただきました。そして、支院恒例の「お手製おはぎ」とご供養の品を手にして、皆さん帰途に就かれました。

(通信員 牧野伸江)

ひとり前に出て、渡辺上人より記念品を手渡されるたびに拍手が起こり、笑顔の皆さんでした。

お上人はご法話で『「一日一言」の「彼岸」を引用され、「今の自分を取りがたいと思い、側の人にあります」とお声をかけると彼岸になります』とお話してくださいました。そして、身内の方の体験として「常に愛情深く接すると、幼児であっても会った時に喜びを身体いっぱい表現した」とのお話をしてください、誰に対しても心からの愛情を重ねることの大切さを教えて

いただきました。

その後、お茶タイムとなり、おはぎのご接待をいただきました。皆さん、

上野支院Ⅱ 秋季彼岸会

相手の立場に立つ心を養います

9月21日、秋季彼岸会が厳修されました。

午後8時、橋本上人導師のもと法要が始まりました。ご宝前に三先師・顯修院日達上人と支院先師、護持会員のご先祖さまのお塔婆をお祀りし、ドラ・ハチの鳴り響く荘厳な雰囲気の中、御報恩謝徳を祈願しながらお焼香しました。

法要後、橋本上人は日達上人の『一日一言』から9月21、22日の内容を取り上げられ、「物事を悟っていく心構え、そして相手の言い分によく耳を傾ける。他人の立場に立つて処する心を養う大切さをお互いに認識していきましょう」と、お話しくださいました。また四日市・祖父江上人は、ご自身の

ご供養品を戴き、お上人、お庫裡さまのお見送りを受け、家路に就かれました。
(通信員 栗木良子)

体験をもとに「相手を助け、導いてい

神戸支院Ⅱ 山首上人さま「親修・秋季彼岸会

すがすがしい気持ちにあふれました

9月21日、山首上人さまにご親修いただき、秋季彼岸会が営まれました。

平日にもかかわらず、多くの皆さんが早々とお寺にお越しになりました。

昼食後、皆さんは本堂やロビーでお茶を召し上げられ、楽しそうに会話をしながら待っておられました。

いつもと違う緊張感が漂う中、午後2時より山首上人さま大導師のもと彼岸法要が厳修されました。散華が舞い、ドラ・ハチの音が堂内に響き渡り、山首上人さまの澄んだ力強い読経の声が

くことを第一に、少しでも良い方向に向くように対処することで、六波羅蜜の行いがすべて満たされていくこととなります」とお話しくださいました。厳しい夏も過ぎ去り、過ごしやすい季節、収穫の時期を迎えますが、益々の精進をお誓い申し上げます。
(通信員 廣出寛一)

流れる中、ご参詣の皆さんは先師への御報恩とご先祖さまへ感謝の気持ちを込めて、真剣な面持ちでお焼香をされました。

法要後、田中上人は「日頃から心を広くして修養し、六波羅蜜、即ち、法音寺三徳(慈悲・至誠・堪忍)の実行をしていきましょう」とお話しくださいました。

続いて山首上人さまは日本弓道連盟の柴田猛前会長や、ベルギーの高級チヨコレート会社、ゴディバジャンパンの

ジエローム・シユシャン社長が弓道で
体得された弓道の神髄『正射必中』(正
しい作法、正しい心で射られた矢は必
ず的に当たる)を紹介され、「私達が
日々実践している御法も同じで、正し
く徳を積めば必ずその結果は良い因縁
となって表れ、求めなくても幸せにな
ります」とお話しくださいました。

ご法話後、特別加持をしていただき

大阪支院Ⅱ秋季彼岸会・報恩会

気持ちが落ち着くわ！

夏の暑さが厳しかった分、朝夕の涼
しさが何にも増してありがたく感じら
れます。境内では吹き流しが静かに揺
れる中、時を遅えず彼岸花も凜と並ん
で咲き誇っていました。

9月23日、秋の彼岸会と併せて圓実
院日和上人(長谷川常覚上人)第7回
忌と、静宣院妙綱法尼(祖父江妙綱法
尼)の御報恩会が厳修されました。こ
の日に合わせて本堂の畳も新しく入れ
替えられ、「すがすがしい香りやねえ、

ました。皆さん身も心も軽くなったよ
うで、その明るい笑顔が印象的でした。
終了後、ご参詣の皆さんは支院特製
手作りの「おはぎ」のご接待を受け、
ニコニコ顔で帰っていかれました。

山首上人さまからたくさんのお徳を
いただき、すがすがしい気持ちにあふ
れた、うれしい彼岸会でした。

(通信員 石田成子)

「気持ちが落ち着くわ！」と喜びの声が
聞こえてきます。

午後2時、古山上人導師のもと法要
の開始。ご宝前の輝きも一段と増す中、
大勢の参詣の皆さんの心のこもったお
焼香の列が長く続きました。

法要後、古山上人は長谷川常覚上人
の7回忌にあたり、折々にご教化をい
ただかれた思い出をお話してくださいま
した。また、「法音寺の教えは間違いい
ない」という信念を心の芯に持ってご

法に取り組まれた長谷川瑞昌上人や日
堅上人(長谷川瑞学上人)の姿勢につ
いても感慨深くお話しくださいました。
続いて田川・手嶋上人は「彼岸の心と
は、両親や子ども達を喜ばせようとい
う心です。日常生活の中でコツコツと
行うことが大切です。そして少しでも
世の中を良くしていきたいましよう」と力
強くお話しくださいました。

その後、まだ暑さの残る境内でご供
養の冷やしうどんに舌鼓。喉ごしも気
持ち良く、元気をいただかれた皆さん
は、すがすがしい表情で帰路に就かれ
ました。

一方、本堂では早くも有志の皆さん
によるお会式の万灯の飾りつけが行わ
れていて、活気があふれていました。

(通信員 坂井信子)



手ぬぐい帽子が大好評です

秋晴れの9月24日、秋季彼岸会が営まれました。田の畦道には、紅い曼殊沙華が咲いています。お昼には黒豆の入ったおこわ、冬瓜汁、アジフライとサラダ、果物が振る舞われました。台所では奉仕の方々が頭に三角巾のかわりに手ぬぐいで作った帽子を被ってご奉仕されています。いろいろな柄が華やいだ雰囲気醸し出し、どこかしら若返ったように見えます。「かわいいね」「おしゃやれで素敵だ」と好評でした。

午後1時より、村上善立上人導師のもと彼岸会の法要が厳修されました。100名を超すご参詣の方々の熱気で本堂内が暑く感じられます。荘厳な読経の声が響く中、参詣者全員順に手を合わせ、ご先祖さまに感謝のお焼香をされました。

法要後、善立上人より「見返りを求

めず、この体がある限り、周りの方々に言葉や思いやりを施すこと、施しは最上の善根です」と「布施」についてのお話をしていたいただきました。続いて

関支院Ⅱ秋季彼岸会

布施を実践し、極楽をつくります

残暑の中にも秋の気配を感じる9月24日、秋季彼岸会が営まれました。

午後1時30分より吉橋顕良上人導師のもと法要が奉行されました。読経が流れる中、三先師・日達上人、そして吉田妙源法尼と檀信徒各家先祖諸霊位のお塔婆に、参詣の皆さんは感謝の祈りを捧げ、香を手向けられました。

法要後、顕良上人は「お寺にお参りするだけでなく、お話を聞いて教えるを実行するのが信仰です」とお話しくださいました。続いて岩田上人は、お彼

島田知教上人は「彼岸に積む徳は倍になります。真心をもってお題目を唱え、三徳の実行で徳の貯金をしてください」とご教示くださいました。

終了後、ホールにて温かいコーヒーとワッフルで休憩した後、おはぎのパックとご供養を戴き、皆さん帰路に就かれました。
(通信員 岩間淑子)

岸にちなんで六波羅蜜の布施について「心の施しをすると心が清浄になり、極楽になります。家庭も極楽になります」とご教化くださいました。

お彼岸にご先祖さま方も大勢のご参詣の皆さんに会えて、お喜びになっておられることと思います。

終了後、ご参詣の皆さんはお餅の入ったご供養を戴き、笑顔で家路に就かれました。
(通信員 幅梅子)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

穏やかで安らかな心になりました

9月24日、西春・渡辺上人をお迎えし、前原上人導師のもと秋季彼岸会が厳修されました。

支院の周りの田んぼの稲も黄金色に輝く秋晴れの朝、ご奉仕の方により境内にお題目旗が立てられました。堂内ではご供養の袋詰めが行われ、各部署でご奉仕の方が彼岸会の準備をされています。ご宝前には三先師・日達上人の大塔婆と檀信徒先祖代々諸霊位のお塔婆が立てられました。彩り鮮やかな秋の仏花、実りの秋の果物などでご宝前は輝いています。日曜日とあって本堂も賑やか。子ども達の可愛い声も聞こえてきて、和やかな雰囲気でした。

午後1時30分、法要が始まりました。満員の本堂に大太鼓の響きとお題目の聲が上がり、散華が舞い、声明にのってドラ・ハチの音が鳴り響きます。そして、力強い読経が流れる荘厳な雰囲気

気の中で、ご先祖諸精霊のご供養と、報恩感謝を捧げるお焼香の長い列が続きました。

法要後、渡辺上人より「良い行いは

安芸津支院Ⅱ秋季彼岸会

家庭でのほめ合いを実行します

台風18号のため、予定より1週間遅れとなった秋季彼岸会が9月24日午前10時より、大本上人導師のもと執り行われました。

内陣に散華が舞い、読経の中、先師への御報恩感謝、各家ご先祖への追善供養の心を込めて、参詣の皆さんはお香を手向けられました。

法要後、湯本法尼は「急な日時変更にもかかわらず、大勢の方々にお参りいただき、彼岸法要を行えたことに感謝します」と挨拶されました。続いて

良い結果をもたらし、悪い行いは悪い結果を生みます」と、心に響くお話をいただきました。

彼岸のように穏やかで安らかな心になったご参詣の皆さまは、感謝を胸に帰途に就かれました。

(通信員 三輪一女)

大本上人は、『現代生活の指針』を引用され「家庭から、良いところを見つけてお互いにほめるようにしましょう。それが楽しい境遇の彼方の岸にいつもいるということになります」と、わかりやすくお話くださいました。

ご法話の後は、皆さん、ご奉仕の方々が早朝から心を込めて作られたおはぎのご接待をいただき、家庭での「ほめること」の実践をお誓いしながら帰路に就かれました。

(通信員 重岡秀子)

大難が小難に、小難が無難になりますように

9月24日、秋季彼岸会が営まれました。

法要に先立ち午前10時より、除災祈願お題目会が営まれ、災害が少しでも無くなるように、大難が小難に、小難が無難となるようにとの思いで、お題目を唱えさせていただきました。

午後1時30分、森野上人導師のもと彼岸法要が営まれ、読経の中、三先師・日達上人、支院先師、各家のご先祖さまに感謝を込めてお焼香させていただきました。

法要後、森野上人は「今までより、より良い人生にするために、いろいろな物・事に感謝して、今日もありがたかったと思えるように、一つずつ精進を心掛けて実行してください」とお話しくださいました。続いて、大庭上人は「話を聞いてあげることと問題の50%は解決し、相手の方は安心されます。

相手の方が安心なされば、聞いてあげた方は施無畏者です」とお話しくださいました。

ご供養にみたらし団子と玉子をいた

亀岡布教所Ⅱ秋季彼岸会

慈しみの心に変えたい!

田んぼの隅の、きれいに咲き並ぶ彼岸花に心癒される9月24日、上田常信上人導師のもと秋季彼岸会が営まれました。ご宝前の三先師・日達上人・檀信徒のご先祖さまのお塔婆に散華が降り注ぐ中、御報恩謝徳とご先祖さまへの感謝の心でお焼香をさせていただきました。

法要後、渡辺堯学上人は「中国に留学した時、心に響く『一日一言』を讀んで、これだけは人生をかけて実行しよう」と思いました」とお話しください

いただきました。

お盆の頃から若い方が多く見受けられるようになりました。この時期、彼岸法要にお参りされ、お墓参りに行かれ、ご先祖さまもきつと喜んでおられることでしょう。良いお話を聞いて、一つでも実行していきたいと思えます。

(通信員 平田真弓)

いました。続いて上田上人より「精神修養をして功德を積み、法音寺の教えの通り実行して、観世音菩薩さまと同じように周りの人を助けられるように精進してください」とお話しいただきました。

その後、座談会があり、皆さん次のように話されました。

○「孫が子ども会で、おはぎ」を作り、『次はいつ来るの?』と聞いてくれたのがうれしかったです」

○「できないながらもできることを自

貴重な体験をさせていただきました

朝晩の過ごしやすさに秋の訪れを感じるようになりました。快晴に恵まれた9月10日午前9時30分より、第28回信行学級が開催され、22名が参加しました。

開会宣言の後、宮崎上人にお勤めをしていただき、信行学級が開始されました。

最初は宮崎上人の講義です。山首上人さまのご講演より、「菩薩行・お題目」についてご教化くださいました。

1、菩薩行Ⅱ「極楽は、西にもあらず東にも、北(来た)道さがせ、南(皆

分で見つけて頑張る勇気が出ました」
○「我以外は皆我が師」と思っって頑張ります」
○「法を聞いても実行できておらず、相手の方が三十三身に姿を変えて私を立て直そうとして導いてくださって

ると思っって、慈しみの心に変えたいと思えます」

○「朝からお曼荼羅を見て、今日もお題目をあげて仕事ができました。感謝します」

最後に、お二人のお上人さまが「一

身)にぞある」とは、法華経を修行してきた中に知らず知らず喜ぶべきことがある、ということ。

2、お題目Ⅱ困ったことに対し、お題目を唱える時間に充てると、喜びの世界に到達できる。

2番目は体験発表です。

柿原光子さんⅡ「母の手術に際し、お徳の力を感じた出来事」

田村仁衛さんⅡ「病気の因縁について」

3番目は体験談を聞いての感想発表

心に相手のことを思うことは非常に大切です。そのような気持ちを大切にしていって、これからも皆さん、楽しく明るく頑張ってくださいませよう」とお話しくださいました。(通信員 花崎寿美)

です。

○体験談を聞き、お徳を感じた。法華経に出会えて良かった。

○困難な状況に、家族で立ち向かう様子に感銘を受けました。

○苦しいことは、仏になるための計らい。お徳積みに励みたい。

○目に見えない本山のお徳の力の大きさを実感しました。

宮崎上人より「体験談を発表することとは大変なことですが、自分の体験を再確認できる良いことです」との総評をいただきました。

4番目は、読経(要品・序品第一より)を、50分間休まず連続して行いました。無心で読経に没頭することは大変気持ちの良いもので、貴重な体験を



福山支院の信行学級

させていただきました。

5番目はお勤めです。心を込めてお勤めさせていただきました。

最後、記念撮影をして解散となりました。

御法のお陰で学ぶ機会をいただけた

岐阜支院 位牌供養祭

ご先祖を敬うお心に幸せを感じました

朝晩の空気がさわやかになった9月14日、支院の講日に併せて位牌供養祭が前原上人導師のもと、厳修されました。

前日、位牌堂に安置されていた百体程の繰位牌が、奉仕者によって一体一体拭き清められ、ご宝前の祭壇の白布の上に整然と並べられてお祀りされました。金色に輝き、一段と神々しさを感じます。脇には納牌霊位のお塔婆が立てられ、ご宝前には秋の実りの果物やきれいな仏花が供えられ、華やかで荘厳な空間です。

午前11時30分、受付が始まりました。

ことに感謝し、三徳の実行をお誓いさせていただきます。

午後3時過ぎには皆さん、ご供養を戴き、笑顔で家路に就かれました。

(通信員 砂田裕章)

ある女性は、ご自分の家とご実家のお位牌を見つけ、うれしそうに笑顔で手を合わせておられました。

午後1時30分より法要が始まりました。大太鼓に合わせた力強いお題目にドラ・ハチが奏でられ、魂に響く読経が流れる中、お上人が一軒一軒の繰位牌に丁寧に回向されると、施主の方々とともにご先祖の喜びが伝わってくるようでした。皆さまがご先祖さまを敬い、心を込めてお焼香される姿に幸せを感じました。今こうして生かされているのもご先祖さまのお陰と感謝して、日頃から功德を積んで精進していこう

と思われました。

法要後、前原上人より「一水四見」といって、同じ水でも四つの見え方があります。立場や心遣いで物事の見え方が違ってきます。私達はこの世の中に修行に来たのです」と心洗われるこ

法話をいただきました。
三先師・日達上人・山首上人さまのお徳をいただき、ご参詣の皆さまは笑顔で帰路に就かれました。
(通信員 三輪一女)

豊川支院 敬老法会

華やかに、晴れやかに、若々しく

9月16日、敬老法会が行われました。午前10時、敬老の皆さまは紅白のリボンを胸に本堂へ。時間までロビーで抹茶のご接待があり、落ち着いた雰囲気の中、皆さま楽しんで秋色の和菓子をお楽しみくださいました。

やがて開始の案内があり、大太鼓に合わせてお題目の唱和。三宅上人導師のもと、敬老長寿祈願のお勤めが始まりました。今年は70歳以上の敬老者53名が参加される中、ご宝前で皆さまのお名前が読み上げられ、長寿・身体健全のご祈願が行われました。

法要後、三宅上人は「ありがとうございます

な。お陰さまだな」という感謝の心があると日々を楽に過ごすことができそうです」とお話しくださいました。

続いて記念品の贈呈。婦人会お手製の来年の干支・戌のぬいぐるみが愛らしい顔で、敬老の皆さまの掌で甘えて

いるようです。そして「賀寿」の皆さま、古希(70歳)4名、喜寿(77歳)2名、傘寿(80歳)4名、米寿(88歳)2名の方々に、三宅上人から花束が手渡されました。運営委員長の祝辞では、山首上人さまからの祝電も披露され、喜びで堂内が満たされました。

記念撮影では満面の笑顔をカメラに納め、祝宴会場の吉祥院に移動いたしました。

談笑とともに祝いの箸は進み、締めはお楽しみビンゴゲーム。

三先師・山首上人さまのお徳に包まれて、華やかに、晴れやかに、若々しい敬老法会でありました。
(通信員 鈴木康昭)

関支院 長寿祈願会

笑顔をつつぱいいただきました

9月18日、支院にて長寿祈願会が催されました。

午前11時、吉橋顕良上人導師のもと法要が始まり、お題目の流れる中、70

歳以上の男女24名、お一人おひとりの身体健全・長寿が祈願されました。

その後、顕良上人は「100歳以上の方が昨年より約2千人増えたそうで

す。生かされていることに感謝し、それぞれ自分のできることで徳積みをしてください」とお話しくださいました。続いて山首上人さまから戴いた祝電の披露があり、皆さん感謝されていました。

テーブルの上にかわいいお弁当と婦人会手作りのお吸い物・梨が並べられ、和やかな会話の中、楽しい祝宴が始まりました。

まずは紙芝居劇団・孫六座による「まぶたの母」が上演され、次に、敬老会の一員である踊りの先生のすばらしい舞いを2曲見せていただきました。そして岐阜市のポランティア大道芸一座ストリートブラザーズの手に驚き、腹話術を見て笑い、終わりにみんなで懐メロを合唱し、記念品を戴いて閉会となりました。

笑顔をいっぱいいただいた一日でした。いろいろな方のご協力により長寿祈願会を成し遂げることができました。

(通信員 幅梅子 代 門崎桂子)

田川支院 敬老会

目も耳も心も楽しませていただきました

9月18日、敬老会が行われました。今年も2名の方が新しく敬老会に入りました。これから徐々に多くなることでしょう。

手嶋上人からのお祝いのご挨拶、そして今年も山首上人さまからご祝辞を戴きました。本当にありがたく、来年もまた元気で祝いできますようにと心でお願いしました。

食事を楽しみながらの余興は「がまの油売り」。刀で切って見せる所はわかっていてもドキドキでした。中島

ゆきの「糸」は解説つき。フラダンス

は華やかで目も耳も心も楽しませてくださいました。そして一年ぶりの炭坑節。柳井妙澤法尼がお元気な頃、自ら歌われ、全員で炭坑節を踊ったことを思い出しました。「妙澤先生、見ておられますか?。先生の歌で踊らせていただきましたね」

皆さんは、先生のお姿を思い出し、振りを思い出しながら踊られました。

天気も良く、心温まる敬老会でした。

(通信員 海野和子)

西春支院 敬老法会

明るい笑顔が輝きました

朝夕は虫の声が聞こえ、日中は秋晴れとなった9月21日、敬老法会が行われました。70歳以上の32名が出席され、午前11時から始まりました。

渡辺上人が山首上人さまからのご祝辞を読み上げられ、ありがたく拝聴しました。勤行では、今年お亡くなりになった方々へ追善供養と、出席者の身

体健全・罪障消滅をご祈願くださいました。

その後、渡辺上人は「自分のできることで人を喜ばせましょう」とお話しください、心に残りました。

続いて花束贈呈です。敬老者を代表して受け取られた80歳の女性は、美しい花束を両手で抱え、記念のカメラにっこり応えられました。

それから、椅子をご宝前に並べ、全員の集合写真です。「笑顔で」とのお上人の呼び掛けに、皆さんの明るい顔が揃いました。

昨年に引き続き、若い体操の先生が来院され、運動を指導してくださいました。はじめに2班に分かれ、小さい球を白い箱に投げ入れました。次は大きいボールを両足にはさんで内腿の筋力を高める動作。皆さん楽しそうでした。

昼食の時間となり、婦人部の方々の協力で机上には仕出屋のお弁当、果物、記念品が並べられました。お味噌汁も運ばれ、お弁当を開けると6品目のお

かずが彩りよく配されており感激でした。

おいしいお料理で満腹になった頃、あみだくじの発表です。当たりくじに用意された4品は誰もが望むものばかりです。当選者は1番の人から希望の品を選び、その笑顔に皆さん拍手を送りました。

その後はジャンケンゲーム。お上人

平賀支院 〓 彼岸会 団参

いつもむずかしい顔の自分を反省！

9月23日、6台の車に分乗した18名が本山秋季彼岸会に団参しました。

前日まで雨降りで、「当日雨なら、孫の運動会がないので参詣します」と言われた方もいらっしやいましたが、そこは本山の行事だけあって、予想最高気温が30度の見事な晴天となり、8時30分に支院を出発。道中、小学校の運動会風景もありました。

10時前に本山に到着。わらび餅等をいただいでゆつたりと過ごし本堂へ。

のご発声で始まり、最後に残った幸運者が景品を手に入れ、喜びいっぱいでした。3回繰り返され、ハズレの人にもお菓子が配られました。

来年も元気な出席者が揃うことを願いつつ、和気あいあいのムードの中、お開きとなりました。

(通信員 栗木良子)

ご宝前より三列目位の位置で法要に臨みました。

法要終了後に山首上人さまから、「本日は大勢ご参詣くださりありがとうございます。ありがとうございます」とのお言葉があり、その中の一人としてこうして参詣させていただいたことを、改めてありがたく感じました。

続いて、山首上人さまより、「ある作家は編集者の方に悪い印象(気分)を与えないよう、鏡の前で顔を作って

から原稿を渡された」と教えていただき、いつもむずかしい顔をしてばかりの自分を反省しました。

ご法話後には全員開山堂で昼食をい

上野支院Ⅱ敬老法会

楽しいお話で大盛り上がり

9月24日、敬老法会が開催されました。

午前9時、奉仕者全員集合。門前幕設置、法要準備、料理搬入・配膳など準備万端整い、9時30分より受付開始。本年は招待者全員に椅子席が用意されました。

10時より橋本上人導師のもと法要が厳修されました。

お待ちかねのお祝いの宴の始まりです。その前に、山首上人さまからの「お祝いの言葉」をご披露いただきました。続いて橋本上人は「あたりまえと思える中に、本当は感謝すべきことがたくさんあります。本日この場に來ることができたことにも感謝いたしま

ただき、快晴の青空のもと、健康で参詣できたことに感謝しつつ、本山を後にしました。

(通信員 加藤寧子 代 堀部有弘)

しよう」とご挨拶され、さらに『一言』を引用してお話しくださいました。

続いて敬老法会に参加される代表者の方の感謝の言葉をいただき、いよいよ宴が始まりました。

乾杯の音頭を合図に食事が始まり、楽しいお話で大盛り上がり。招待者の笑顔があふれます。鯛の尾頭付き、お赤飯、お刺身、紅白饅頭、果物いろいろ

神戸支院Ⅱ開基堂輪番奉仕

仏さまの働きができるよう精進します

秋晴れのすがすがしい天気恵まれた9月24日、開基堂を輪番参詣しまし

ろ、記念品のタオル等々。そして婦人会の方々が心を込めて調理してくださったのっぺい汁、だし巻き玉子等々をおいしそうに召し上がられました。

午後1時、子ども達からのお菓子のプレゼント、青年会による二人羽織、婦人会からは「カラオケ歌っている人は誰でしょう?クイズ」、そしてビンゴゲーム、参加者の方による手遊び体操(脳トレ)、ご当地相撲甚句、法友会の二人コント(とほけた演技が大受けしていました)をご披露いただき、最後は、恒例の数え唄を合唱。午後2時30分、お開きとなりました。

すべての片づけを4時には完了し、無事全日程を終えることができました。(通信員 廣出寛一)

た。

総勢19名を乗せ、マイクロバスは支

院を出発。道中安全を祈願して、全員大きな声でお題目三唱をしました。

車内では袋詰めのおやつが配られ、楽しい会話が弾みました。車窓からは黄金色になった田んぼの眺めが楽しめ、快適なドライブでした。

開基堂に到着し、田中上人導師のもと御報恩謝徳の法要と、三徳実行のお誓いをさせていただきました。そして、御開山上人をはじめ先師への感謝のお焼香をさせていただきました。今年も参詣できたことを喜び合いました。

田中上人は、「御開山上人は法華經の教えを実践され、それをわかるように説いて教えてくださいました。仏さまの働きができるように実行をさせていただきますし」と、お話しくださいました。

法要後、田中上人と開基堂の高浪上人を囲み、参詣者全員で記念写真を撮りました。

納経堂に参拝した後、研修棟ではご奉仕の方々の温かいおもてなしを受け、おいしい昼食をいただきました。

高浪上人、お庫裡さま、ご奉仕の皆様さんにお礼を申し上げ、お見送りを受けて、参詣者一同感謝して帰路に就きました。

途中、京都市中京区にある世界遺産「二条城」を見学しました。今年は徳川幕府が終焉を告げた大政奉還から150年。その舞台となった国宝の二の丸御殿をはじめ、書院造りの庭園を散策して、徳川家の繁栄を象徴する豪華

豊川支院 信行会

行学二道に励みました

10月1日、第76回信行会が営まれ、31名が行学二道に励みました。

午前8時50分、白衣を羽織り、緊張した面持ちで孝祥院から本堂内陣へ。お題目を高らかに唱え、行道いたしました。

9時00分 開会の勤行

座布団なしの床板への正座でも、心地良い足の痛みです。(足の不自由な方は内陣に椅子席)

絢爛な世界を楽しみました。

高速道路は渋滞もなくスムーズに流れ、予定の午後6時に支院に無事に着きました。参詣者一同、今年も開基堂へ参詣させていただいたことを感謝いたしました。

一人でも多くの方にこの御法と縁を結んでいただけるよう、精進していきたいと思えます。(通信員 石田成子)

9時30分 三宅上人ご法話

『法音』10月号 山首上人さまご講演より、『無私』の天皇をいただく幸せを、簡条書きにした用紙をくださり、詳しくご説明くださいました。日本国に生まれた幸福を感謝いたしました。

10時20分 「宝塔偈」写経

*水はこれ大慈悲、潤いの智水。墨はまた楞嚴禪定の石墨なり。功德善根によつて法界の衆生とともに、無始已来



豊川支院の信行会

の三業、六根一切の罪障を皆悉く消滅。

11時10分、読経練習

「提婆達多品第十二・訓読」

信教師講師から、経文の読み方、年回忌の時に読まれる箇所の説明等を勉強いたしました。

11時40分、終勤（唱題行）

一心に唱えるお題目。空想の世界にいるのか？身体が天井まで浮かび上がり、唱題する姿を観察している。そんな

岐阜支院Ⅱ小原清掃奉仕

「ひつつき虫」は奉仕の勲章

さわやかな秋空の10月1日、恒例の小原清掃奉仕が行われ、有志25名がマイクロバスで出掛けました。

草刈り機の扱いに慣れた人も多く、指示して下さる方からも「グラウンドの傾斜のきつい所をお願いします」と、期待にあふれたご指示をいただきました。早速「ブーン」とエンジン音を響かせて草刈り開始。それ以外の方は草刈り機の入れない植木の根元やフェン

な不思議な感覚にひたっていました。

正午、昼食・後片づけ

仏恩・国恩・同朋の恩に感謝し、三徳の実行をお誓いして、食事をいたしました。

10月8日、開基堂へ輪番奉仕の参詣をいたします。本日の「宝塔偈」を開基堂の納経塔に、自らの手で納めることのできる感動を法友と語りつつ、帰途に就きました。(通信員 鈴木康昭)

スの下を、鎌で丁寧に向っておられました。秋のこの時期、衣服に引っつく「ひつつき虫」の勲章をズボンや上着にびっしりつけて、皆さん奮闘しておられました。

1時間半程して休憩です。準備してくださった飲み物やお菓子をいただきました。

休憩を終え「さあ、もうひと頑張りしましょう」とのリーダーの掛け声で



岐阜支院の小原清掃奉仕

作業再開。1時間程頑張った後、新しく建てられた練習室で昼食。施設長さんはじめ、皆さんから心のこもった感謝のお言葉をいただき、かえってこちらのほうが恐縮してしまいました。

ご自分の畑で取れた野菜を、煮物やお漬物にして持って来てくださった方

郡上八幡支院Ⅱ開堂会

お寺は心の支え、心の拠りどころ

晴天に恵まれ秋風が心地良い空の下、五色の吹流しが風に舞っています。幔幕も色鮮やかに本堂を包み、お題目旗がご参詣の皆さんをお待ちです。

10月1日、支院開堂22周年を祝う御報恩法要が執り行われました。

午前11時、渡辺上人導師のもとお題目とともに散華が舞い、読経が流れる中、支院開堂会御報恩法要が厳修されました。

法要後、渡辺上人は支院建立22周年を迎えられたことへの感謝のお言葉の後、「お寺を通して心の修養をし、そ

があり、皆さん喜んで召し上がっておられました。所定の作業が無事完了し、皆さん満足げな笑顔。いつも参加していただける皆さんに感謝しながら、奉仕の一日を終えました。

(通信員 三輪一女 代 井上勝洋)

それぞれの立場を通して自分のできるところで教えを実行していきましょう」とお話しくださいました。

続いて恒例となったお上人方による「餅まき」です。景品つきということもあり、堂内は歓喜に包まれ大いに盛り上がりました。たくさんのお餅と景品を手にした方々は、その後境内のパー会場に繰り出し、うどんやコロッケ等、それぞれの味わいに舌鼓を打ちました。子どもさんも笑顔いっぱい楽しい会場となりました。

今日も一日、山首上人さまのお徳と、

多くの方のご協力、ご精進のお陰で無事に終えることができました。これからもお寺を通して一人でも多くの人に縁を結んでいただき、少しでも心

福山支院Ⅱ山首上人さまのご親修／大黒祭・授戒会

さつぱりときれいになられた尊神さま

10月1日午後2時、大黒・鬼子母尊神祭・授戒会が、山首上人さま大導師のもとに執り行われました。

大迫力の読経、赤いローソクの炎が揺れ燃え上がる中、香浴が行われましまはさつぱりとされたようにお見受けしました。小さなお子さん連れのご家族等、多くの方がご参詣になられ、本堂は活気に満ちていました。

次に授戒会が行われ、山首上人さまの信仰護持のお問い掛けに、皆さん「よく持ち奉る」と大きな声でお誓いされました。

法要後、山首上人さまは「仏教を実践していく（善い行いをする）」と、仏

抛りどころとなっていただけのように、御法の火をともし続けていきたいと思えます。
(通信員 八代哲雄)

さまの姿形に似てきます。三徳の実行をして、今よりさらに良い顔になるように頑張ってください」と優しく説いてくださいました。

名古屋地区Ⅱ瀬戸布教所新本堂起工式

会員一同一層絆を深めてまいります

10月2日、山首上人さま大導師のもと瀬戸布教所新本堂新築工事起工式が執り行われました。当日は朝早くから小雨がパラついていましたが、式典が始まる前には雨も止み、曇り空に変わりました。平日にもかかわらず、大勢の方々が参列されました。

午前11時より厳肅な雰囲気のもと起

最後に特別加持が行われ、読経、木剣の音が本堂に響き渡りました。罪障が消え、心も洗濯していただけたような気持ちになりました。

皆さん、罪障・病氣消滅等を祈願され、山首上人さまよりたくさんのお徳をいただいて、満面の笑顔で大黒さま・鬼子母神さまとともに帰路に就かれました。

山首上人さまのご法話を拝聴し、「三徳の実行をしていきます」と心に誓いました。
(通信員 砂田裕章)

工式が始まり、参列者全員がお焼香を行い、工事の無事を祈願しました。

新本堂建立の機会に出会えたことは一生の喜びです。感謝して会員の皆さまとともに、なお一層、絆を深めてまいります。

(通信員 菱田照久 代 高原叔子)



名古屋地区の瀬戸布教所新本堂起工式

一宮支院 敬老会

先師の方々の艱難辛苦に思いを馳せました

10月5日は皆さんが心待ちにしておられた恒例の敬老会の日。28名の方々が、それぞれお孫さん、息子さんと一緒に、またご夫婦揃って、お元気なお顔でご参詣にられました。

まずはお抹茶で一服。本堂では皆さんそれぞれに久し振りとあつて話も尽きず、温かい雰囲気が出ていました。本堂は万灯の紅白の花が加わって華やかです。午前11時より伊藤行善上人導師のもと、法要が営まれました。身体健全・長寿祈願のお勤めが始まり、一同の唱和が堂内に響きました。

その後、山首上人さまからのお祝いのお言葉が代読され、皆さんの喜びもひとしおでした。続いて伊藤法尼より「私達は三徳のみ教えに会わせていただきました。感謝と堪忍の大切さ、このことを心して日々実行いたしましよ」とお言葉をいただきました。皆さん心に

しっかりと受け止められました。午後1時から昼食の助六・すまし汁のこもったおかずをいただき、身も心も満腹に…。

続いてはお楽しみです。支院では「笑う門には福来たる」の提案のもとに行われるようになった、満丸亭ゆき寧さんによる落語が始まりました。

演題は「定年後はアイドル」と、古典落語の「百年目」でした。「定年後はアイドル」は新作で、今回はゆき寧さんの息子さんを作られたお話でした。定年後のご婦人二人のかけ合いで、ご法の教えを盛り込んで作られており、皆さん笑いとともにお話に感銘を受けておられました。

続いて本堂一面の幕に「法音寺の成り立ち」のビデオを上映していただきました。先師の方々の艱難辛苦に思いを馳せ、広宣流布を改めてお誓い申し

淡路支院のお会式



上げました。中には「私、涙が出たわ」とハンカチで目頭をおさえる方も。始祖・安立大法尼の「一人から始まる」の尊い教えに会わせていただき、感謝

淡路支院Ⅱ山首上人さまのご親修／お会式・授戒会

心新たな一日となりました

の念を深められたのでしよう。皆さん、元気でお寺に来られ、身心ともに若返り、帰途に就かれました。

(通信員 今枝文子)

世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」で陸続きになっている淡路島ですが、はるばる山首上人さまがご来院くださいました。

秋の気配を感じる10月5日、お会式と授戒会が山首上人さまご親修のもと厳修されました。あまり広くない本堂ですが、参詣の方でほぼ満席になりました。山首上人さまに間近でお会いできた幸せに、皆さん、少し緊張と興奮の相まったご様子でした。本堂に紅白の万灯が飾られ、日蓮大聖人に御報恩謝徳の心を込めて皆さんお焼香されました。

授戒会では、山首上人さまがお一人おひとりの戒名を読み上げ、授与され

ました。授戒の方々には心新たな一日となりました。

式後、山首上人さまは「堪忍の大切さと、堪忍の徳」を笑い話を交えながら、笑顔でお話しくださいました。初めて講日に来られた方もありましたが、皆さん、良いお話が聞けてありがたかった」と喜んでおられました。

山首上人さまは、休憩する間もなく特別加持をしてくださいました。

この日参詣された支院の皆さんにとつて、心満たされる一日となりました。これからも感謝して、教えを實行し、徳の人となれるよう精進していこうと思いました。

山首上人さまにお越しいただけたことに感謝し、お見送りさせていただきます。

(通信員 川西広子)

支院だより掲載写真は、それぞれ関係者より提供されたものです。

法音寺のホームページで 月刊『法音』を公開しています。

<http://www.houonji.com/>



スマートフォン・
タブレット端末対応!

下のQRコードからも
アクセスできます



※リニューアルに伴うURLの変更や廃止により、一部のページが見られなくなったり、リンク切れが発生することがあります。この場合は、サイトマップページで該当の情報をお探しいただくか、サイト内のキーワード検索をお試しください。

YouTube に 法音寺チャンネルが できました。

<https://www.youtube.com/user/houonjimovie>



ホームページから、またはYouTubeサイトで



◀◀ 左のQRコードからもアクセスできます



法音寺の紹介や歴史、活動記録をご覧になれます。

法音寺公式 facebook で 『一日一言』配信中!!

※ホームページからもアクセスできます。

Facebookのアカウントをお持ちでない場合

1. www.facebook.comを開きます。
2. 登録フォームが表示された場合は、名前、メールアドレスまたは携帯電話番号、パスワード、生年月日、性別を入力します。フォームが表示されない場合は、[登録する]をクリックし、フォームに入力します。
3. [登録する]をクリックします。
4. アカウントの作成を完了するには、メールアドレスまたは携帯電話番号を確認する必要があります。



福祉の ひろば

ニコニコ子育てく保育の現場からく⑥

〔4歳児の子育て〕

3歳頃の、ピョンピョンと跳ね回って遊んでいた姿から、少し落ち着きが見られる4歳は成長が著しく感じられる頃だと思えます。急に走ったり、止まったり、スキップしたり、足の力の入れ方や、体の使い方が上手になり、手先も一段と器用になり、活動の幅がどんどんと広がることでしよう。

手先が器用になってくると、さまざまなお道具も使えるようになり、ハサミも上手に使えるようになってきます。道具は危ないから使わせないのではなく、大人がそばにいて教えながら一緒に使い、手先を使う楽しさとともに、危険な物でもあるということも伝えましょう。

最近はお道具を使う機会が少なくなり、微妙な手先の力加減が苦手な子どもが増えてきています。簡単な大工仕事をお子さんと楽しめると、物が出来上がっていく過程や仕組みもわかり、うれしい経験となることでしよう。安全について、言葉での理解も進んでくるので、遊びの中には危険もあるということとを少しずつ伝えていく必要があります。

自立もどんどん進んでいくため、自ら予測して、危険な行為に及ばないように抑制できる心も身につけていききたいものです。川や水辺には子どもだけ絶対近づかないことや、知らない人に声をかけられてもついていかないことや、自ら危機管理ができるようにするためにも、機会があるごとに繰り返し伝えていきましよう。

考え方も、少しずつ論理的になり、ものを見通す力も高まっていきます。「あした」「あさって」等の時間の概念や、自分達が住んでいる町から離れた場所に、祖父母が住む町がある等、空間の概念もぼんやりとつかむことができて、大人顔負けの話をすることもあり、ビックリさせられることも出てくるでしょう。物事の仕組みに興味がわいてきて、「どうして?」と質問されることも多くなってきました。

知的好奇心は「学び」の始まりでもあります。疑問を持つからこそ、知りたいという気持ちが強くなり、知ることのでき、知性が伸びてきます。質問に対して一つひとつ受けとめ、わかりやすく説明をしてあげると良いでしょう。

3歳の「なんでもやりたい。自分が一番!」の頃に比べ、〃やりたいけれど、やってはいけないこともある〃と、二つの気持ちをコントロールし、周りの人から自分がどう見られているかが気になりはじめ、〃自分とは違う気持ちや立場がある〃という社会性の育ちの大切な時期に入ってきてます。天真爛漫

に振る舞っていた子どもも、中には〃人からどう見られるのか〃を気にしてしまい、〃上手にできないかもしれない〃という不安から、急におとなしくなってしまう子どももいます。しかし、せかせかたり、叱咤したりするのはなく、「失敗しても大丈夫だよ」と言葉をかけて、子どもの気持ちに共感し、寄り添ってあげることで、相手の気持ちや立場が理解できる優しさが育っていくのです。相手の気持ちができるようになってくる頃ですので、絵本や物語の登場人物の気持ちや関係性も理解できるようになります。最近ではテレビやインターネットの普及により、より刺激的な物を好む傾向にあります。絵本の世界からイメージをふくらませることで、想像力が養われるとともに、文字への興味や、絵本に描かれている絵から、色彩感覚も育っていくでしょう。

さまざまな事柄に興味や関心を広げながら、自ら〃これに興味があり、学びたい〃と思える気持ちを育てることが、早く文字や数を教え込む早期教育よりも大切なことです。

(T・T)



福祉に 生きる

社会福祉法人 昭徳会

光徳保育園・天王保育園の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

社会に貢献できることを誇りに思っています

光徳保育園 栄養士兼調理員 藤巻 葵帆

『日本の福祉を築いたお坊さん』を読むことで、今まであまり深く考えてこなかったことを考えさせられ、改めて自分を見つめ直すことができました。

私は今まで「人生の意味」を考えたことはありませんでした。しかしこの本で「自分は幸せなのだろうか」「自分はこのまま年をとって死んでいくのだろうか」「自分は何のために生まれてきたんだろう」といった言葉を目にした時、自分に当てはめて考えてみました。が、想像しにくいものでした。今の自分は、働き始めて仕事を覚えることや仕事をこなしていくことで一杯になってしまっているため、自分のこともよくわからず、周りを見る余裕がないのだと感じました。どう

いう自分になりたいのかを考えましたが、なかなか明確なものは見つかりませんでした。これから少しずつ、なりたいたい自分や生きる上での幸せを見つけていきたいです。

生の松原のハンセン病療養所での話を初めて聞いた時、衝撃的でとても自分には真似できないことだと感じました。人のために自らの生活を犠牲にし、患者さんのために自分達のできる限りのことをしていたと知り、とてもすごいことだと思いました。こういった体験から得たことが、その後につながっているのだとわかり、あきらめずに続けていくことで結果がついてくるのだとも感じました。上手くいかないこと、できないかもしれないと思うことがあった時には、この本を思い出し、あきらめずに一生懸命に頑張っていきたいと思っています。

また、修学先生は育児院や保育園の設立などたくさん事業を行い、いろいろな人と関わっていることもすごいと感じました。こういった経験から「一人ひとりに思いやりの心をもって接します」「一人ひとりを尊重し、その人に合った支援・援助をします」「一人

ひとりを大切に、まごころで接します」「すべての人の幸福をめざし、たゆみなく援助技術の向上に努めます」「お互いに助け合い、より良い生活ができるよう努めます」という昭徳会の五つの「基本方針」が作られていることがわかりました。ほかにも子ども達の長所を活かし、「一つ教えるのに五つほめる育て方」など、さまざまな子どもへの接し方や育て方があることが学べました。

最後に、修学先生は日本福祉大学を創立し、人のため社会のためにとでも貢献されていた方だということがわかりました。そのような方の創立した社会福祉法人昭徳会の一員として、誰かのために貢献できることを誇りに思います。昭徳会の名を汚さないよう、頑張っていきたいです。

真心を込めてすべての人を大切にします

光徳保育園 保育士 鈴木 百合子

この本を読んで、子ども達との心のふれあいを大切にし、どの子にも同じように愛情を注ぎ、心の通じ合

える保育士になりたいと感じました。そして改めて、子どもに愛情を注ぐということは簡単なことではないと感じました。ただ可愛がるだけではなく子どもの将来を考えながら保育し、心を包容してあげられるように、日々自分も学びながら勤めていきたいです。そのためには、自分が子ども達のためにができるのかを、考えて過ごしていこうと感じました。一年目ということもあり、できることが限られるかもしれませんが、今の自分にできる最大限のことをしていきたいです。

私はこの本に書いてあるような、子どもの中にあるいろいろなことに対しての意欲を引き出せる保育士になりたいです。子ども達と関わっていく中で、日々それぞれの子どもに合った関わりをしていき、信頼し合えるように心掛けていきたいです。また、「長所を活かす教育」を私もめざしていきたいです。子ども達を毎日の生活の中でよく観察し、良いところを見つけて一日に何回ほめる」と決めて過ごそうと決意しました。もちろん、すぐにはできないことだと思うので、まず良い所をほめる行動を自分の習慣にして、自然にできるように身につけたいです。それは子どもだけを

対象にするのではなく、仕事の同僚や友達など、自分の周りの人達も対象であり、その意味も伝えていきたいと感じました。「慈悲」という言葉を自分の中の軸として「五つほめて一つ教える」という、この本に書いてある言葉を忘れずに日々過ごしていきたいと思えます。

次に、私は「真・善・美・聖」の精神がとても心に残りました。これから仕事をしていく中で、毎日真心を込めて仕事をしようと思えました。忙しく働いている時に真心を込めるのはとてもむずかしいことだと感じています。早く真心を込めた行いができるようにになりたいです。そして人に喜んでもらえ、喜びの生活ができる立派な人間になれるように努めたいです。

最後に、今自分が仕事をさせていただけのことに毎日感謝していこうと思えました。昭徳会はいろいろな人の力があって作り上げられたことが、本を読んでよくわかりました。目の前にいる子どもにもたくさん愛情を注ぎ、何があっても真心を込めることを忘れず、感謝して働きます。昭徳会に関わっているすべての人、友達、家族を大切にできる大人になりたいと思います。

修学先生の理念を自ら実践します

天王保育園 業務員 竹島 真理

この本を読んで私が一番心に響いた言葉は「苦勞とともにし、真心を持つて導けば、必ず人の心は動かすことができる」という修学先生の教えです。日本の福祉の原点とも言える、困っている人や恵まれていない人のために心身を働かせて救済することは、一人ではできないと思います。全身全霊をかけて人のために尽くすことは並みの努力では不可能です。誰かがやってくれるだろうと見て見ぬふりをせず、真心を持ち、実践していくことを日々繰り返し、周りがどんな状況でも貫いていく強い心が必要だと思います。実践を繰り返しすることで、その行動に共感してくださる方が少しずつ増えて大きな力になり、事業として成り立つことができのだと思います。

修学先生がハンセン病の患者さん達の施設で実践されたことは実話とは思えないような過酷なもので、想像を絶します。もし自分ならどうしていたのか考えるのと、きつと逃げ出していたと思います。しかし修学先

生は、必ず救える」と信じ、日々努力したことで成し遂げられました。少年を更生する日々も同じことでした。ともに辛い日々を乗り越えていくことで、少年達の表情も変わり、ほめて育てることで子ども達も自信を持ち、やる気が起きて更生され、良い結果が生まれたのだと思いました。

修学先生は、人のために自らを犠牲にできる仏の心を持った、まさに「神」とも言える存在で、これからもずっと後世に語り継がれていくことでしょう。日本福祉大学の創立の根源ともなる三つの施しは、まさに現代の世の中でも会社の基盤となる三本柱だと思います。財施・無畏施・法施。どれ一つ取っても欠かすことができません。衣食住に困窮している人は大勢います。私達が施すことにより、その人達は幸せになり、人として当然の生活ができるようになります。物の供給は無償でなければなりません。そこには慈悲の心があるからです。二つ目の「無畏施」は「言葉により安心を与えてなぐさめること」ですが、これも無償です。「法施」も、教え与えることで良い方向に導くことができます。これらはすべて相手に見返りや世間からの

評価など求めず、すべて救済を目的に人々を幸福へ導くことなのだと思います。その神髄である実行の精神は自らが正しい行いをして、それを人に見せて教えるを説くことが肝心なのだと思います。

「不可能なこと」と言葉で言うのは簡単ですが、それを実行しないのであればお金や地位があっても人はついてきません。まず自らが実行すること。困窮を味わい、苦をともし、同じ空気を吸い、同じ気持ちになる。それらによって自分も同じ立場に立つことができれば、修学先生のように人々は後をついていき、尊敬され、教えが広まっていくのだと思います。幸せの種を育てるには、まずは自らが心身ともに健全であること、そしてすべてを受け入れる心、すなわち自らが幸せであることが人々を救済できる近道なのだと思います。

自分の幸福よりも人の幸福を第一に考えます

天王保育園 保育士 安本 和希

日本の福祉を築いた鈴木修学先生の物語を読み、第

一に感じたことは、修学先生は自分にはない考え方や生き方を持っている方だということです。若くして仕事に励み、成功を収めていたのにもかかわらず、自分の幸福だけでなく人の幸福について考えるというのは、なかなかできないことです。修学先生が「自分が生まれたのは人のために尽くすため」とお考えになったことは、まさに福祉の精神を持っている方なのだなと感じました。

修学先生は、杉山辰子先生に出会って人々を助けるために生きる一步を踏み出します。杉山先生は人々を助ける福祉の精神の持ち主で、修学先生は影響を受けて慈善事業を積極的に行っています。そして、後にハンセン病の患者さんを助ける活動をします。当時の人々はハンセン病患者さんに対してとても悪いイメージを持ち、近づこうともしなかったのにもかかわらず、修学先生はその人達と一緒に過ごし、平等な目線で接しました。もし自分が修学先生の時代を生きていたら同じことができるかと考えると、できないと思います。修学先生が時には自身の身を削ってでも患者さん達を助けたことは、自分では考えられないとさえ感じます。

杉山先生が亡くなった後も先生の努力を無駄にはできないと、代わって事業に専念していく修学先生。育児院で活動をするようになり、心に傷を負った子ども達と向き合います。修学先生は子どもの年齢を問わず平等に接し、また、短所を指摘するのではなく長所を伸ばすことを大切にしていました。〝良いところがあれば大いにほめ、叱るべきことがあったとしても必ずほめてから叱る〟という考えは尊敬します。修学先生は後に昭徳会を築き、ほめることを大切にするといい考え方を持って実践していきますが、これは人の幸福を第一に考えるためにはもつとも大切なことだと思います。

ほめることを大切にするという考え方は、昭徳会の一人として自分自身も保育を行う上で常に意識しているかなければならないと思っています。子どもに叱るべきことがあったとしても、まずはほめ、気持ちを受け止めます。杉山辰子先生と出会って福祉活動を始めた

修学先生の想いは、今も日本福祉大学や昭徳会の基盤に受け継がれています。自分の幸福よりも人の幸福を第一に考える心掛けこそ、昭徳会の一員として最優先にして生きていきたいと改めて感じました。また、行動指針となる十カ条も同時に意識していかなければならないと思いました。

光徳保育園

- 愛知県安城市御幸本町6-17
- 定員80名
- 職員 正職員16名、パート職員11名

天王保育園

- 愛知県みよし市三好町天王51-20
- 定員160名
- 職員 正職員21名、パート職員16名

- 栄養士Ⅱ献立表の作成や食事の評価など給食管理、入所児の栄養管理や栄養指導、衛生管理を担当。
- 調理員・業務員Ⅱ入所児の給食の調理を担当。
- 保育士（児童福祉分野）Ⅱ児童福祉施設において児童の保育を行う者。保育士の資格が必要。

※本稿は平成29年7月にいただきました。（掲載順不同）

『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・168頁・8000円(税別) 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

“HAPPY SMILE”みんなで考えるアレルギー対応



写真提供・昭徳会

光徳保育園
～子ども達の「幸福」な笑顔のために～

現在、アレルギーを持つ乳・幼児が増えてきています。光徳保育園でも例外ではなく、さまざまなアレルギーを持つ子どもが在園しているため、「みんなで考えるアレルギー対応」を実践テーマとし、取り組むこととしました。アレルギーの知識を深め、安全な「食」を提供できるよう、認定NPO法人アレルギー支援ネットワークの常務理事・中西里映子氏をお招きし、施設内研修会を開催しました。研修を通して、食物アレルギーは発達とともに減少していき、一人ひとりに合った対応をすることで子どもの「心と命」を守れることを学びました。子ども達にも、絵本などを使い、アレルギーの怖さや、アレルギーのある子どもに対して偏見を持たないように伝えました。すると子ども達も、関心が高まり、声を掛け合うなどの姿が見られ、気持ちの変化が現れてきました。

職員も「アレルギーを持つ子ども達に、みんなと同じものを笑顔で楽しく食べてほしい」という願いを持って、さまざまな種類の食物アレルギーに対応したクッキング保育を子ども達と楽しむことにしました。小麦粉アレルギーを持つ子どもに小麦粉を米粉に変えたうどんや鬼まんじゅうを作りました。また、スマイルカフェというおやつのを企画して、すべてアレルギーに対応したメニューをお店屋さん形式で提供し、子ども達のたくさんの方々の笑顔を見ることができました。これらの経験を通し、子ども達が自分達で作った物を食べることや、みんなで同じ物を食べられることが喜びにつながり、笑顔が増えることを実感しました。

もう一つの取り組みとして、職員の危機管理意識を高めるため、ここ数年のヒヤリ・ハット（重大な事故に発展したかもしれない危

険な出来事）を見直し、毎年数件出ているアレルギーに関するヒヤリ・ハットを減らすため職員間で協議し、アレルギーのある子ども達の一覧表とアレルギーカードを改善しました。子ども達の笑顔を守るため、今後より良い方法を検討していきたいと思えます。

今回の実践を通して、食物アレルギーが乳幼児期に多く見られることから、保育園でのアレルギー対応の重要性を再確認しました。アレルギーが原因で命を落とすといったニュースも度々聞かれます。しかし、光徳保育園を利用するすべての方の「HAPPY SMILE（ハッピースマイル）」をめざして、アレルギーを軽視せず正しい知識を持ち、一人ひとりに合った対応を心掛けていきます。全職員で協力し、アレルギーがあっても安心して子どもを預けられる保育園をめざしたいと思います。

光徳保育園 保育士 村松裕平

和太鼓部「楽鼓」全国大会で最優秀賞受賞

～日本福祉大学付属高等学校



写真提供 日本福祉大学付属高等学校

本校和太鼓部『楽鼓』は、今年の夏、全国高等学校総合文化祭（総文祭）郷土芸能部門において、最優秀賞・文部科学大臣賞（全国1位）を受賞しました。総文祭は「文化の甲子園」と呼ばれており、『楽鼓』はこれまでに連続26回の出場を果たしています。過去、最優秀賞1回、優秀賞1回、優良賞6回の成績を収めており、伝統校と認めていただいておりますが、このたび16年ぶり2回目の受賞となりました。

8月26日には東京の国立劇場の舞台で、最優秀校として演奏を披露することができました。演目は、「絆」和太鼓組曲『海嶺』より。地元美浜町の偉人「船乗り音吉」の波乱の人生を描いた三浦綾子さんの小説『海嶺』から題材を得て、和太鼓組曲に構成したオリジナル曲です。メンバー一丸となった演奏に、会場から大きな拍手をいただきました。

6月上旬に出場メンバー28名が決まってから、試験期間中の2週間を除き、平日は2時間、土日祝日は8時間の練習に打ち込みました。総文祭の数日前からは、緊張せずに力を出し切ることや、自然体で本番に入れるように、楽器を使わず、円になって手のひらで膝をたたいたり、口ずさんだりして自分のパートを確認する練習も行いました。

部員のほとんどは和太鼓初心者です。部の名前のとおり「楽しくたく」を



モットーに、仲間と支え合いながら日々の練習に励み、いろいろな場所での公演活動を経験し、全国大会に出場して、大きくたくましく成長していく部員一人ひとりの姿に、毎年のですが感慨深いものがこみ上げてきます。

この秋創部30年を迎えましたが、この間行った公演は800回にのぼります。地元地域でのさまざまな行事への出演はもちろんのこと、海外にも出かけています。2001年イギリス、2002年韓国、2006年台湾、2012年中国・北京、2015年アメリカ・ピッツバーグ、2016年2度目の台湾公演と、和太鼓の音色を通じて、こころの響きを届け、国際交流を行ってきました。

また、東日本大震災被災地との交流も続けており、これまでに宮城県石巻、岩手県大船渡、福島県川俣町等で演奏交流活動を行いました。仮設住宅や仮設の商店街、特別養護老人ホーム、小学校などで演奏させていただきました。被災地の方々から、震災時のことや復興の現状、今後の課題などについて、直接お話を聞き取る時間も大切にできました。自分達の演奏によって笑顔になっていただけることに、大きな喜びを感じるとともに、被災地の今を受け止め、今後を考える貴重な経験となっています。

また、楽鼓の活動によって得られた協調性や持続力、仲間とやり遂げた達成感を糧に、さまざまな領域で活躍している卒業生も大きな誇りです。

日本福祉大学付属高等学校は来年4月に創立60周年を迎えます。引き続き、建学の精神に基づき「どの子も伸ばす」を合言葉に前進してまいりますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

日本福祉大学付属高等学校 今田和弘

幸せの種まきⅡ一人が一人を

今ないものを不足に思うより、 あるものに感謝しましょう

人生は、特別いいことがあつてありがたい
ではありません。
普段何でもないこともよく考えてみると、
ありがたいことばかりです。

大乗山 法音寺

編集後記

毎月、印刷前の校正原稿ができれば、山首上人さまに目を通していただきます。山首上人さまは、時間をかけて隔々まで読まれ、最終的に出稿を許可していただきます。私達編集部が「ほつ」とする瞬間です。「この内容で『法音』を皆さんにお届けしたいですよ」と、山首上人さまにご了承いただいたということになるからです。

どの頁も多くの方々の想いが込められています。毎月原稿提供をしてくださる通信員の方々、各コーナーの原稿を担当されているライター、写真家、漫画家、イラストレーター、原稿の配置を担当された編集者、文章表現を何度もチェックして修正してくれた校正者に印刷屋さん製本屋さん、そしてなにより「山首上人さまの心を形にして全国の皆さんにお届けしよう」と日々編集に取り組んだスタッフ。みんなの想いがたくさんつまっています。

それゆえに、読者の皆さんからの声が届くと感激もひとしおです。

「今月の『朝のこない夜はない』を読んで、涙が出ました」

その一言で、その日一日は何も要らない程、とても幸せ。時に、ミス指摘されることもあります、それだけ熱心に読み、応援してくださる方がいるということ。

どうか、今月も『法音』が読者の皆さんの心に届きますように。そして、記事を読む誰かの力になれますように…。

ノロマ

竹中 淳







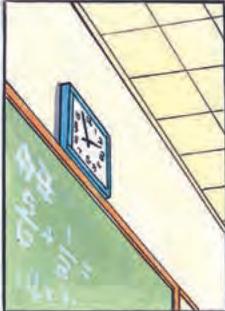


放課後



え、オレ達掃除当番？

そう、ボク達5人！はい！



おーい、オレ達もう終わったぞ

野呂がまだ…



野呂くん、手伝うよ

蓮！手伝わなくていいぞ！



おまえがノロマだからちつとも終わらないじゃないか！

ごめん



オレ達廊下から教室までほとんどやったんだぞ

おまえにまかせたお壇回りちつとも終わってねーじゃん



オレらもう帰るぞ

ノロマ！あとやつとけよ



ちよつとお！5人が当番なんでしょ、なんであんた達だけ先に帰るの!?

うっ



これでよく
掃除したって
いうわね

机の下は
ゴミだらけ



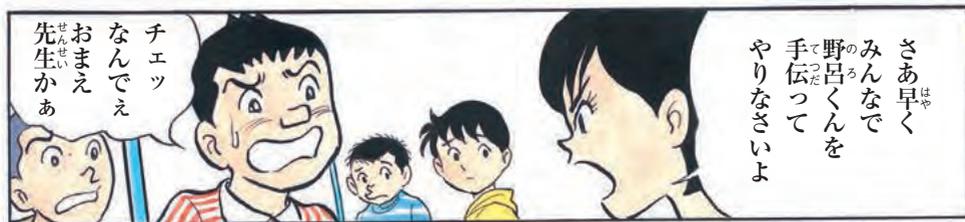
あなた達
野呂くんのこと
ノロマっていうけど

なによ この
いいかげんな
掃除!



それにくらべ
野呂くんは
丁寧に雑巾で
手拭きして
きれいよ

そりや時間
かかるわよ
それをノロマ
だなんて:



さあ早く
みんな
野呂くんを
手伝って
やりなさいよ

チエツ
なんでえ
おまえ
先生かあ



うるさい!
じやま
じやまだよ!

そんな乱暴に
モップで拭いちや
ダメだよ



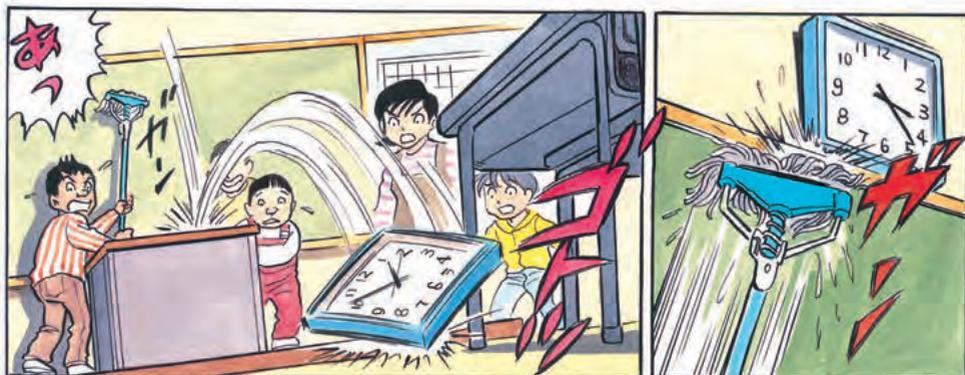
ホラー!
あなた達
黒板消して!

くそお



やろうぜ
みんなやれば
すぐ終るよ

おう





こんなの
ボクが
月曜までに
家で直して
くるよ

ボクに
まかせて！

え？

ウソだろ？



じゃ みんな
月曜日！

ほんとう
本当に
直せるのか？
あのノロマに…

そうねえ
野呂くんなら
直しちゃうかな



委員長
なんで直せるって
わかるの？
野呂くんメカに
強いつて知ってた？

知らないわ

じゃ
どうして？

フフ…



野呂くんの掃除を
見ててわからない？
それにキミら答案を
みせっこしてたでしょ？
気がつかなかった？

もう一度
見せてもらう
ことね

？

そして月曜日
時計はなにも
なかったように

いつものように
時を
刻んでいた



ノロマ!

おん
恩にきるよ
ありがと
う
助かったよ

そんな
おお
大げさだなあ



あらためて答案を
見せてもらった
ボク達は驚いた

あれっ?
半分しか
やってないじゃん

| | | |
|------|----|----|
| 野呂正男 | 1 | 67 |
| | 2 | 67 |
| | 3 | 67 |
| | 4 | 67 |
| | 5 | 67 |
| | 6 | 67 |
| | 7 | 67 |
| | 8 | 67 |
| | 9 | |
| | 10 | |
| | 11 | |
| | 12 | |
| | 13 | |
| | 14 | |

でも一つも
間違えてないよ
これって...もう少し
時間があつたら
100点とれてる
かも...

うわあ
こりゃ オレ達
アイツのこと
笑えないぞ



そうかあ 野呂くんは
「ノロマ」じゃなくて
丁寧でジツクリやる
タイプなんだね

そうよ
そんな
慎重な野呂くんが
自信もっていうんですもの
きつと時計を
直せると思ったわ



おしまい

書籍のご紹介

法音寺を
知りたい方へ



戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが

『法音寺物語上・中・下』

法音寺広報委員会 企画

中央法規出版刊

B5版 平均96頁総カラー

定価各巻一、〇〇〇円(税別)

法音寺の教えを
学びたい方へ



現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三四五頁

定価八〇〇円(税込)



続現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三五二頁

定価八〇〇円(税込)

仏教を
学びたい方へ



鈴木修学先生の
南無妙法蓮華經

浅井圓道著

山喜房佛書林刊

四六判/二百二頁

定価一、八一四円(税込)



妙法蓮華經略義

鈴木修学著

青山書院刊

A5版/八六三頁

定価六、〇〇〇円(税込)

福祉を
学びたい方へ



日本の福祉を築いた
お坊さん

星野貞一郎著

中央法規出版刊

A6版/一六八頁

定価八六四円(税込)



福祉を築く

西山茂・秦安雄／

宇治谷義雄著

中央法規出版刊

A5版/二二三頁

定価三、六二八円(税込)



自説誓言

一人を導く功德は広大です
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜立庄
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成29年11月号・No.577・平成29年11月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社